

フォトライフ

四季

カメラのキタムラ フォト ネットワーク
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-4-1
☎ 045-476-0777
平成10年6月1日発行
季刊第25号
キタムラホームページ
<http://www.kitamura.co.jp>

カメラの
キタムラ®

vol.25
SUMMER

特集 写真家・田中達也氏

自然との一体感を感じながら、
独自の視点で被写体をとらえる。

「眼鏡橋」を撮る 織田寧人氏インタビュー

かけがえのない風景の存在を、多くの人々に伝えたい。

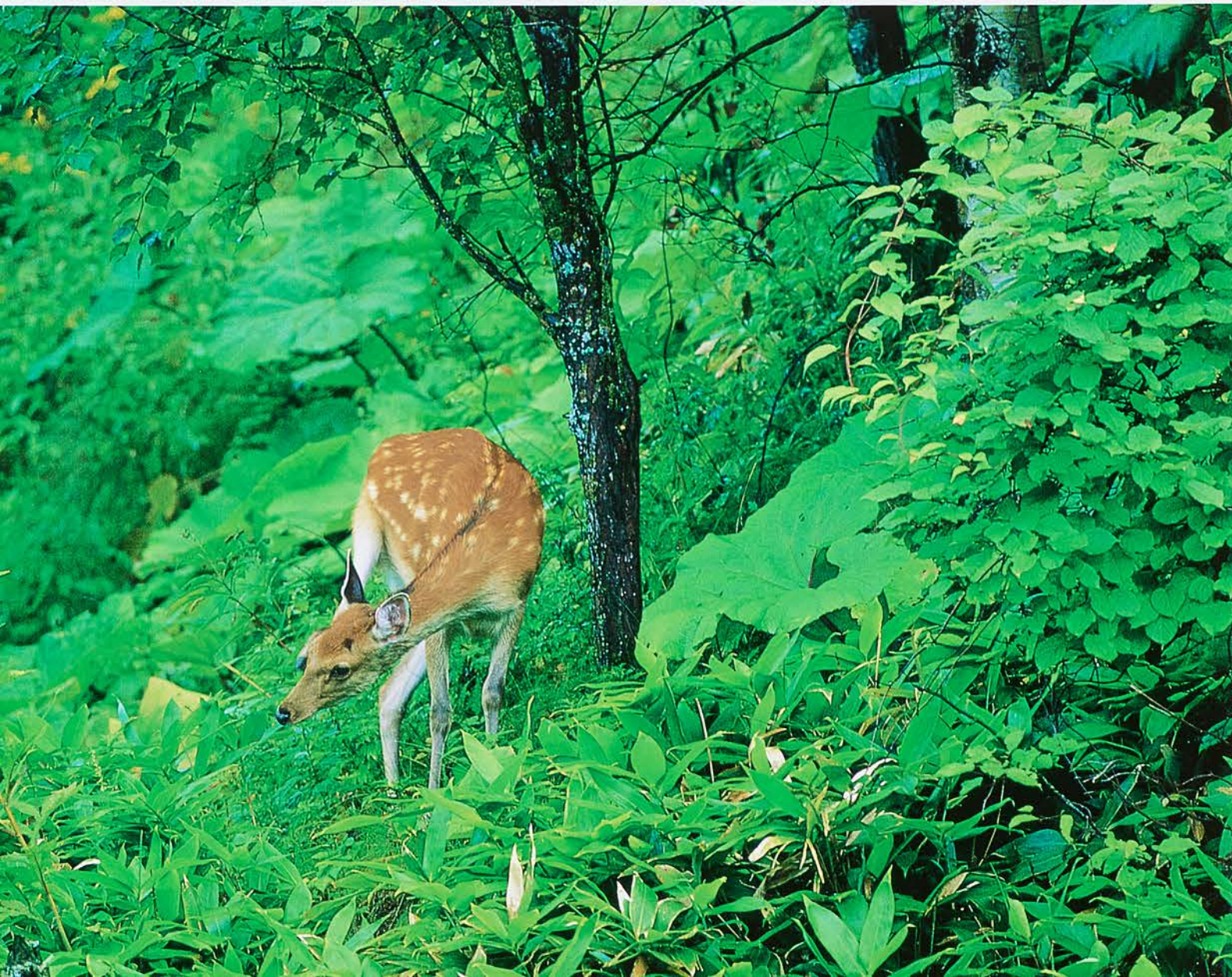
日常風景ウォッチング 最終回

「路上観察」の達人 赤瀬川 原平氏インタビュー②

保存版 デジタルビデオカメラ特集

山腹の木陰に現れた子鹿を望遠レンズで狙う。私との距離は約50m。特に警戒する様子もなく愛くるしい自然な振る舞いを見せてくれた。

■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF400mm F5.6L 絞り：f5.6 AEマイナス1/2 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：北海道旭川市郊外
(撮影) 田中達也氏



フォトライフ
四季

CONTENTS
Vol. 25
SUMMER



山を覆っていた雲が日の出とともに動き出した。濃淡様々な固まりとなって谷間をすり抜けていく。山肌の見え隠れするタイミングを計ってシャッターを切る。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF70~200mm F2.8L 絞り：f11 AEマイナス1/3 補正 フィルム：ベルビア PLフィルター・三脚使用 撮影地：長野県横手山
(撮影) 田中達也氏

特集 写真家・田中達也氏

自然との一体感を感じながら、
独自の視点で被写体をとらえる。..... 2

田中達也先生が撮影した「日本の自然」..... 8

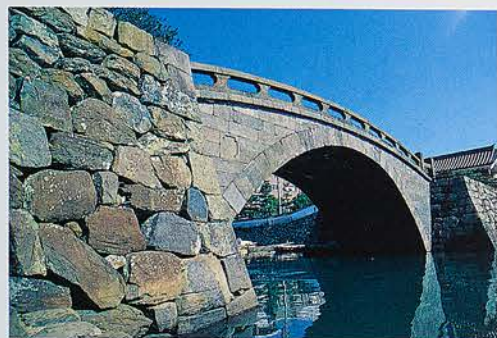
写真の楽しみ いっそう広がる 日常風景ウォッチング 最終回

「路上観察の達人」赤瀬川 原平氏② 10

THE フォトワールド⑬ 「眼鏡橋」を撮る 織田寧人氏インタビュー

かけがえのない風景の存在を、多くの人々に伝えたい。..... 16

保存版 デジタルビデオカメラ特集..... 26



「幸橋」(さいわいばし) 平戸島の港近くの入り江にかかるこの橋は、石組みが整然としていて美しい。
■カメラ：ニコンF4s レンズ：24~50mm 絞り：f5.6~8AE
フィルム：ベルビア スカイライトフィルター使用 撮影地：長崎県平戸市 (撮影) 織田寧人氏

写真おもしろヒストリー⑰

連載記事

レンズ物語 前編 ガラスから生み出された大発明..... 15

新・メーカー探訪 現代銘品カメラ列伝④

ペンタックス645N編 18

撮影便利メモ②

海辺の風景に夏の被写体を求める 20

第3回「ペット・動物ふれあい写真コンテスト」入選作品発表..... 24

読者のページ フォトライフ四季 ふれあい広場..... 31

キタムラ・インフォメーション 32

プレゼントが当たる! クロスワードパズル 32

編集後記 32

MINOLTA

70
anniversary

私は、スウィート。



Sweet

ママの瞳の一眼レフ。

ママへ。ここがおすすめ。

- ファインダーをのぞくだけでピントが合う<アイスタート>。子供の“一瞬”を逃しません。
- シャッターを押すだけで、プロ級の写真。あなたの子供がアイドルになります。

パパへ。ここがおすすめ。

- <2コマ/秒の高速連写>や<i+i型の3点ワイドAF>、<露出ブラケット撮影>、<カスタム設定> <金属マウント>などの高機能満載です。

新・登・場

やさしく、軽い。世界最小一眼。



- 希望小売価格(税別)
- αスウィート AFズーム28-80mmF3.5-5.6 II シルバー付 ¥92,000
 - αスウィート ボディ ¥67,000
 - AFズーム28-80mmF3.5-5.6 II シルバー ¥25,000
 - カメラケースCH-100 ¥4,500

※幅・高さ・奥行がいずれも世界最小。35mmレンズ交換式フラッシュ内蔵AF一眼レフカメラにおいて。1998年4月1日現在。
■詳しいカタログを差し上げます。(住所・氏名・年令・機種名記入) 〒108-8618 東京都港区高輪2-19-13 NS高輪ビル ミノルタ販売株式会社 フォトライフ四季係
●αシステムのお問い合わせフリーダイヤル ☎0120-493-881 ●お客様相談窓口 ☎(03)5423-7555 ☎(06)271-2641

特集 写真家・田中達也氏

自然との一体感を感じながら、独自の視点で被写体をとらえる。

自然写真家・田中達也先生は、花や昆虫など身近な自然から、夜空や天体など宇宙空間まで、実に幅広いモチーフを対象に、バリエーションに富んだ作品を発表されています。どんな被写体に出逢っても対応できるように、様々な機材やレンズをフルに備えた重装備で険しい自然の中へ分け入るといふバイタリテイあふれる撮影活動は、田中先生ならではのスタイルといえるでしょう。自身と自然が一体となることで、「自分の視点や感覚でとらえた自然」を追い続ける田中先生にインタビューを行ない、ご自身が考える独自の自然観や、オリジナリティを重視する写真作法について語っていただきました。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて田中氏の作品です。



たなか たつや
1956年愛知県生まれ。愛知学院大学文学部卒業。医療ソーシャルワーカーとして精神障害者のケースワークに従事した後、自然写真家として独立。日本写真家協会・自然科学写真協会会員。現在日本フォトコンテスト月例審査員。最新著書に「自然風景表現術」(学研)、CD-ROM『空』(シンフォレスト)がある。多数のカメラ誌に作品を発表。執筆・講演と幅広く活躍中。7月には「風景の写真学校(課題)」を学研より出版予定。

モクモクと沸き上がる入道雲の変貌ぶりは想像以上に速い。見つけたら地上の景色を素早く選んでその形と組み合わせることがコツである。
■カメラ:キヤノンEOS-1N レンズ:EF28~70mm F2.8L 絞り:f8 AEプラス1/2 補正フィルム:ベルビア PLフィルター使用 撮影地:愛知県旭町



雨の日、紫陽花の花の間を動き回る小型のカタツムリを見つけた。花を前ボケにして仕草を狙った。
■カメラ:キヤノンEOS-1N レンズ:EF100mm F2.8マクロ 絞り:f2.8 AEプラス2/3 補正フィルム:ベルビア 撮影地:愛知県尾張旭市



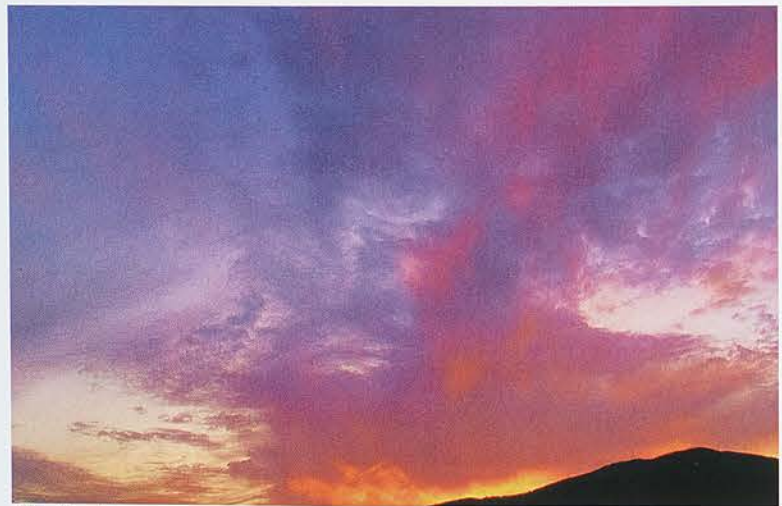
雲海の果てを繰取る光の帯。日の出直前に起きる光の合図だがそれも一瞬。もたもたしていると太陽が現れてしまう。
■カメラ:キヤノンEOS-1N レンズ:EF300mm F2.8L 絞り:f11 AEマイナス1/3 補正フィルム:ベルビア 三脚使用 撮影地:長野県東鞍高原



南アルプスの中腹で、横に折れ曲がった大木を見つけた。その威風を画面いっぱいに取り取った。空の青さをPLフィルターで強調し色彩感を高めた。
■カメラ:キヤノンEOS-1N レンズ:EF28~70mm F2.8L 絞り:f14 AEマイナス2/3 補正フィルム:ベルビア PLフィルター・三脚使用 撮影地:長野県大鹿村



星空の撮影を済ませた頃、東の空が白み始めた。群青色の空に浮かぶ月と星をアクセントに、15秒の露出時間で明けゆく空を切り取った。
■カメラ:キヤノンEOS-1N レンズ:EF20~35mm F2.8L 絞り:f8 AEプラス2/3 補正フィルム:ベルビア 三脚使用 撮影地:群馬県渋峠付近



燃え盛る炎のように夕焼けが空を焦がしていく。低く流れる雲のスピードや広がりによって、その様は刻々と変化する。
■カメラ:キヤノンEOS-1N レンズ:EF20~35mm F2.8L 絞り:f8 AE フィルム:ベルビア 三脚使用 撮影地:長野県山口村



浜辺に寄せる波のリズムは、天候により様々な変化をする。静かな風の夕暮れには、空色を反射した波動が打ち上げられる。
■カメラ:キヤノンEOS-1N レンズ:EF400mm F5.6L 絞り:f11 AEフィルム:ベルビア 三脚使用 撮影地:愛知県赤羽根町

人間の尺度を捨て、自分自身が自然に溶け込んでゆく。

自然には、語り尽くせないほど多彩な表情がある。

まず、田中先生が写真家となられたきっかけをお聞かせください。

幼少時を奥三河に程近い山間にある祖母の家で過ごした私は、写真を趣味にしていた叔父の影響で、物心ついた頃から現像液の酢酸の匂いを嗅いでいました。撮影したフィルムが写真になるプロセスを叔父の暗室で目のあたりにできる環境にいたことで、私は写真というものに親近感をもち、大人になったら自分も撮影したいという憧れが、心の奥に焼きついていたのでと思います。

また「生活環境が自然そのもの」といった土地柄でしたから、幼い頃から野山を駆け回っていましたし、こうした自然風景から実に多くのことを学びました。だから写真というものを本格的に撮ろうと考えた時に、やはり子供の頃に見ていた世界をもう一度取り戻したいという願望をもち、自然写真を手がけるようになったんです。

ひと口に自然写真といっても、草花から天体まで実に幅広いモチーフを先生は手がけられておられるのですが、こうした様々なものに一貫したテーマのようなものはおありなのでしょうか？



谷間の溪流沿いに伸びる杉木に巻きつく山藤。野放図に伸びたツルから、薄紫色した満開の花が一斉に咲き誇る。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF70~200mm F2.8L 絞：f16 AEマイナス2/3 補正 フィルム：ベルビア PLフィルター・三脚使用 撮影地：熊本県菊池市

「自然写真家」と称しています。

他の人とは違った視点で、表現の「新鮮さ」を追求する。

やはりご自身の自然観のようなものが、先生の作品にも何らかの形で反映されているのでしょうか？

自然を撮ろうと思ったら、カメラを持って森へ入ったり、溪流へ下りて行ったり、海へ出たりするわけですが、その瞬間に別の自分が目覚めてきて、被写体である自然と自身とが一体となるような感覚を覚えます。自然はずっと昔からそこにあるわけですから、人間の尺度で自然に対するのではなく、



落差のある細長い滝。その滝壺近くの落下部を、真横からスローシャッターでイメージ的に狙った。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF35~350mm F3.5~5.6L 絞：f14 AEプラス1/3 補正 フィルム：ベルビア PLフィルター・三脚使用 撮影地：熊本県水上村

よく自分のテーマは何かと聞かれるのですが、私は「自分の視点で見た風景」「自分にとって気持ちのいい世界」をとらえているだけなんです。強いて言えば「すべての自然にカメラを向ける」ことがテーマでしようか。自然の表情というのは、一言では語り尽くせないほど限りなく多彩なものなんです。例えば最初に、虫の視点になって植物をマクロで撮りたいと考える。そのうちにアップばかりでなく広い世界も撮りたくなり、広角で山や海の風景を狙ってみる。それでもなかなか良いモチーフがない時は、夜を待って空の星を撮るんです。私は非常に好奇心が旺盛なものですから、こんな感じで森羅万象、何にでもカメラを向けてしまふんです。だから自然全般を撮影対象にするという意味で、自らを

あるがままの自然の中に自分が溶け込んでゆることが、撮影の上でも大切です。それですぐに良い写真が撮れる時もあるし、撮れない時もある。撮れないのは変に欲をかいていたり、いい写真を撮ろうと意気込みすぎている時で、「自然の表情」が見えてこないんです。そんな時は自然に見放されているんです。だから自然に教えられる事って、本当に多いんです。より良い作品を撮ろうと思ったら、気象の動きなど写真以外の知識も必要です。例えば強い風が吹く時というのは、いきなり来るのでなく、その前にまず微風が吹くものなんです。それを煩で感じた時は、もうすぐ強い風が来るといふ合図なんです。それから木の葉がカサカサと囁く時って、あるじゃないですか。その音を気にしていると、これから吹いてくる風の向きがわかるんですね。

私の被写体選びは、まず広い風景を見渡して、その中で眼にとまるものは何なのか、素材的に面白そうなものは何なのかを考えながらエリアを狭めていき、対象を絞り込んでいくのが基本です。そうすると、自分が撮りたいものがはっきりと見えてくるんです。そうした次は、そのモチーフをどう撮ったら作品として成立させられるかを考えるんです。例えば夏の溪流を訪れて、岩に激しい流れがぶつかる水しぶきが目に飛び込んできた、あるいは岩肌をなぞっていた水の足跡に惹かれたとしたら、その光景を

降り注ぐ光と前ボケの色彩の中で、無邪気なボビーが揺れている。リズムミカルな色彩バランスを心がけた。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF35~350mm F3.5~5.6L 絞：f5.6 AEプラス1/3 補正 フィルム：ベルビア100 三脚使用 撮影地：北海道富良野市



ラベンダーの密を集めるミツバチ。その動きは素早いので、訪れそうな花にピントを合わせ待ちぶせするのも効果的である。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF100mm F2.8マクロ 絞：f4 AE フィルム：プロビア100 撮影地：北海道富良野市



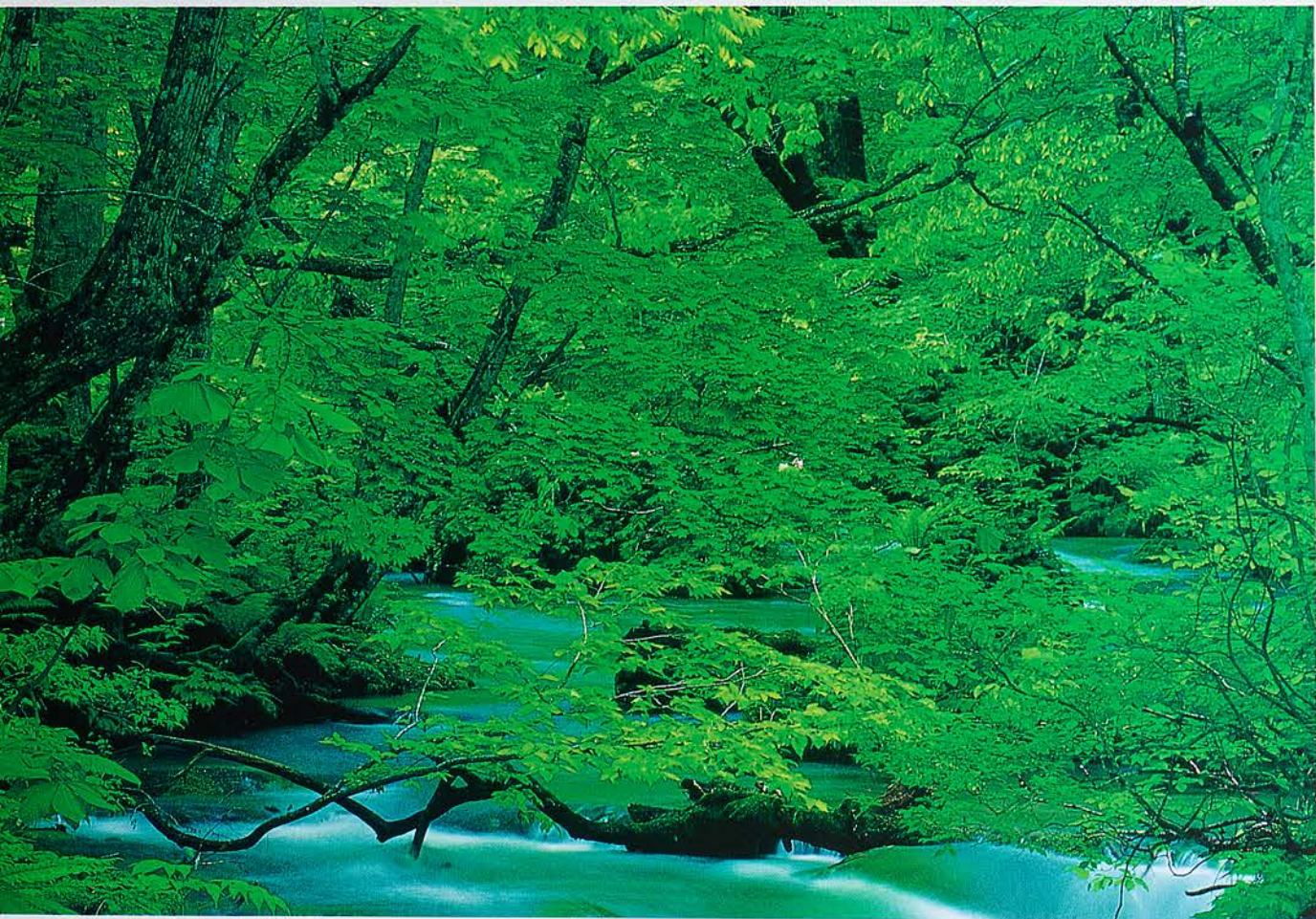
新緑が初々しい朝の光の中で、芽吹きを食する子ザルの兄弟。サイドから当たる光に毛並が輝く。カメラを意識して目線が合った時、反射的にシャッターを切った。
■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF500mm F4.5L 絞：f4.5 AE プラス1/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：長野県上高地



雲間から覗く夕日をバックに、枝先に止まる川鶇を超望遠で狙う。鳥のポーズによって絵柄の善し悪しが決まるのも「影絵表現」ならではの醍醐味。
 ■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF600mm F4L プラス1.4×エクステンダー 絞り：f5.6 AEマイナス1/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：愛知県美浜町



早朝、山の稜線から湧き上がる雲を逆光で狙う。朝の光を浴びて透過する雲の繊細なディテールが美しい。
 ■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF500mm F4.5L シャッターレイド・1/500 AE フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：長野県上宝村



生い茂る緑の木々と水の流れ。こうした場面では作画意図を明確にしないと曖昧になる。ここでの主役はあくまでも木々の重なり、流れは動感を醸し出す脇役である。
 ■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF35mm F3.5 L F3.5 L 絞り：f16 AEマイナス2/3 補正 フィルム：ベルビア PLフィルター 三脚使用 撮影地：青森県奥入瀬渓流

今度は樹の形がくずれてしまふ。ここでどのように折り合いをつけて色と形とを調和させるか、それが最適なアングルを決めるということなんです。

だから素材の形としては平凡でも、色が良ければ色をメインに表現し、「何の変哲もない素材がこんなに美しく見える」という部分を引き出してやることもできるんです。結局、その被写体において色と形、どちらを強調すべきかという事が決め手になるんですが、それはその時々でも違うはずだし、撮影者の意図によっても違う。洋服のコーディネートと同じで、色や形のバランスを感覚的に判断してまとめ上げる作業ですから、それはなかなか理屈で人に教えられる部分ですね。

その感覚の違いが、撮影者の個性として表現されるのです。

その通りです。だからたまたま私は写真という手法を用いているだけで、そこに表現さ

れているのは「自分の視点や感覚」なんです。先ほども言ったように、写真というものはきつりと決まった撮り方をしないとけないものではないです。たとえ写真教室の先生に「こう撮りなさい」と言われても、自分別の撮り方がいいと思つたら、そのように撮ればいいんです。そういう人は、やはりオリジナリティのある作品を残せるし、伸びてゆくでしょう。「表現力」というのは、そうしたことが基本になっていると思うんです。

どうもありがとうございました。

豊かな表現力を生み出すのは、自分ならではの視点と感性。

落下する滝の清涼感を表現するために、前景に緑の枝を配し、滝と正面から向かい合うポジションを選んだ。
 ■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF35mm F3.5~5.6L 絞り：f11 AEプラス2/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：熊本県泉村



活かして自分はそのような表現をするのが大切なんです。

有名な溪流などで撮られた写真を見ると、誰が撮っても同じ位置で同じような構図になりがちですが、それは単にきれいな景観として切り取るうとしてからだと思います。もし私がそこへ行つたなら、絶対に他の人とは同じには撮らないでしょう。私は作品づくりにおいて、他の人が撮つたものとは違う視点、表現としての「新鮮さ」を最も重視しています。だからアマチュアの方などが、コンテストに応募する作品を先生にトリミングしてもらつたりするのも、私は疑問を感じます。それは先生の感覚で切り取つたものであつて、その時点で自分の作品ではなくなる。例えば服を買う時だって、店員さんにどれか

を薦められたとしても、最終的には自分のセンスで選ぶじゃないですか。だから写真だって、もっと自由な視点で撮つて、オリジナリティのある表現をすべきだと思つてんです。

「最適な露出」を心がけ、「色」と「形」を調和させる。

オリジナリティのある表現をするには、技術的にはどのような事がポイントとなるのでしょうか？

露出ひとつをとっても、カメラをAEにしておけば、撮影者が決めたシーンに対して「適正な露出」というものを自動的に割り出してくれますよ。しかしカメラが検出した



朝夕の空色は、大気の澄み具合や雲の種類によって、無限の彩を披露する。
 ■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF300mm F2.8L プラス1.4×エクステンダー 絞り：f8 AEマイナス2/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：長野県志賀高原



朝露のかかる落葉松林の上空に、細くなった月が昇る。パルブル色に染まる夜明けの空気が、夢心地のようなイメージを見せてくれる。
 ■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF80mm F2.8 L 絞り：f5.6 AEプラス2/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：長野県平谷村

「最適な露出」に大幅な補正を加えたとしても、撮影意図にその露出がマッチしていれば、それは自分にとって「最適な露出」なんです。だから私は、常に「適正な露出」ではなく「最適な露出」を心がけているんです。

また、フレーミングにおいては「形のバランス」と「色のバランス」というものを、私はポイントとしているんです。形だけに着目して表現しようとすると、色のバランスがくずれてしまふ。それはアマチュアの皆さんが犯

しやすいミスでもあるんです。樹の形としてはベストな角度を見つけたとしても、その背景に不似合いな色が存在したら、総合的にはいい作品とはなりませんよ。であれば、ちょっとだけ角度をズラして、そのバックの色が目立たない位置に外した方がいい。しかし

田中達也先生が撮影した「自然の色彩美」

四季折々の表情の中に、豊かな色彩を見せてくれる自然の美。草花から天体まであらゆる自然の姿に目を向け、独自の視点と感性でとらえ続ける写真家・田中達也先生に、様々な自然がもつ色彩美の魅力をも、ご自身の作品で紹介していただきました。



初夏の湿地帯にはシダ類をはじめ多くの草花が群生する。色鮮やかな緑葉の群れと湖沼を組合せ、画面構成した。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF28~70mm F2.8L 絞りはf16 AEマイナス1/2 補正 フィルム：ベルビア PLフィルター・三脚使用 撮影地：北海道上川町



火山の噴煙による影響で大気層が汚染されたために起きた深紅に染まる夕焼け。そこに浮かぶ「月齢1」の極細の月。二度と撮影できない組合せかも知れない。
■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF500mm F4.5L 絞りはf4.5 AEマイナス1/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：ハワイ島



話題を集めた巨大彗星ヘール・ボップ。青と白のV字型に伸びる尾が印象的だった。星の動きを追尾する赤道儀による撮影のため、長時間露出でも星は点像に写っている。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF300mm F2.8L 絞りはf2.8 シャッタースピード：16分 フィルム：プロビア1000プラス 赤道儀使用 撮影地：長野県根羽村



山肌を飲み込むように襲いかかる雲。夜間、低空に滞留した雲が上昇気流に乗って一気に舞上がる場面を高所より撮影した。この動きは連写も追いつかない程の速さである。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF35~350mm F3.5~5.6L 絞りはf14 AEマイナス1/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：群馬県六合村



日没直後の東の空は、薄い紫色から群青色の闇に包まれていく。白樺の木立は残照を受け浮き上がり、背後には昇り始めた月が丸い光を放っている。
■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF28~80mm F2.8~4L 絞りはf5.6 AEプラス2/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：岐阜県高根村



微風もなく静まり返った大正池の辺には、朽ち果てた枯木が水面から伸びている。その木肌の質感と周辺の湿っぽい朝の空気感を再現してみた。
■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF80mm F2.0mm F2.8L 絞りはf11 AEマイナス1/3 補正 フィルム：ベルビア PLフィルター・三脚使用 撮影地：長野県上高地



どんよりした空模様が一日中続いた夕暮れ。薄くなった雲の切れ間から、日没直前の太陽が顔を出した。黒い薄雲と太陽の組合せは、どこか淡く憂鬱な気配を漂わせる。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF600mm F4L プラス2Xエクステンダー 絞りはf11 AEマイナス2/3 補正 フィルム：ベルビア 三脚使用 撮影地：長野県南木曾町



沖縄で撮影した海上の夕焼け。水平線上に漂う積雲は、南国の空模様である。そして天空にかけての彩り豊かな雲は、何層にも区切られた雲の演出によるものである。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF35~50mm F3.5~5.6L 絞りはf11 AE フィルム：プロビア1000 三脚使用 撮影地：沖縄県読谷村



シダの群生美を広角ズームで狙った。縦位置構図でバックにある白樺林を入れ、前景から遠景にかけて広がる奥行き感を強調した。
■カメラ：キヤノンEOS-1N レンズ：EF20~35mm F2.8L 絞りはf11 AEマイナス2/3 補正 フィルム：ベルビア PLフィルター・三脚使用 撮影地：長野県志賀高原



夜明けの空高く昇ったヘール・ボップ彗星。肉眼で見た印象に近づけるため、広角レンズで狙った星空風景である。山並がブレているのは追尾撮影のためである。
■カメラ：ペンタックス67 レンズ：SMCペンタックス67 75mm F4.5 絞りはf4.5 シャッタースピード：バルブ30秒 フィルム：プロビア1600 赤道儀使用 撮影地：長野県平谷村

自然を撮るなら環境や近隣への配慮を忘れずに

—田中達也先生からアマチュアカメラマンの皆さんへ—

自然を撮影する中で最近しばしば目にするのが、他人の土地に平気で踏み込んだり、朝早くから民家の軒先へ行って勝手に撮影を始めたりするカメラマンです。また、撮影中にフィルムのパッケージなどを地面に投げ捨てて、そのまま帰ってしまうカメラマンも見かけます。こうした人たちの存在は、自然やその土地の方々にとって、ひとつの公害といっても過言ではありません。だから皆さんも自然をモチーフに写真を撮られるなら、最低限のマナーやモラルをもって、環境の保護や近隣への配慮を心がけていただきたいと思います。

「路上観察」の達人 **赤瀬川 原平氏**②



「植物の擬態」弱い昆虫のように、植物も何かを真似して身を守る。これは人魚が2匹ジャレているに似ては下半身が重い。先の方を尻尾と見れば答えは明白、エビフライ。香川県の多度津町にて。



「縞模様の植木」違う種類の木をサンドイッチにして、縞模様に植えられた珍しい植木。どちらかが紅葉する木だったりすると、さらに色の変化が楽しめる。埼玉県川越にて。



「壁のテレビ、窓のテレビ」ただのブロック壁みたいだけど、よく見ると枠がみんなひと昔前のブラウン管の形をしている。この窓自体もどこかテレビに見える。香川県の高松にて。



「海底2万マイル」この光の鮮やかさ、つややかさは地上のものではない。液体洗剤型潜水艇に乗り込んだシダたちが深海に達すると、背後からは巨大なタコが…。香川県の坂出にて。



「愛の潜望鏡」物も人と同じで、二つ並ぶとその間に愛があるような雰囲気生まれる。これは「愛の潜望鏡」が話し合っているところ。いらかの波が、海になっている。埼玉県の熊谷にて。

物件が発している面白さを感じ取るための、視点をもつことが大切なんです。

路上観察の魅力のひとつで言えば、今まで見えなかったものにいきなり気がつく時の、「目からウロコが落ちる瞬間」ってのが、たまらなく気持ちいいってことなんです。だから自分自身が刺激を受けて、気持ちがりフレッシュできるんです。放っておくと人間ってものは、だんだんひとつの考えに凝り固まっていってしまいがちで、それが新しい発見をすることによって、また弾けてゆくという。あらかじめ資料を調べたりとか勉強したりというものではないんで、どんなモノに遭遇するか全くわからない。だから「わっ、こんな所にこんなモノがあった！」っていう、初めて見るものへの新鮮な驚きがあるんですよ。それが路上観察の一番の醍醐味なんです。

路上観察といっても、街の中すべてをくまなく歩くわけではないので、ただ歩き回ってさえいけば、誰でも同じように面白い物件を発見できるというものではないんです。やはり観察する側の視点の持ち方とか、勘とか運とかいうものも必要なんです。そういう意味では、のんびり歩いているようにでも結構パワーが要るものなんです。大抵はひとついい物件が見つかる、不思議と次々に面白いモノが見つかるんですよ。その理由のひとつは、そういうモノが多いゾーンに入ったということもあるんです。モノを良く感じるようになってくると、目に入ると感じて心を留めることがなければ、写真に残すこともありませんから。やっぱり物件が発している面白さを感じ取るための目をもつことが大切なんです。

赤瀬川原平氏は、知る人ぞ知る「路上観察学会」の中心メンバー。その「路上観察学会」とは、赤瀬川氏のほか、この連載の前半にご登場いただいた南伸坊氏、「東京建築探偵団」として近代建築の現地調査をしていた東大教授の藤森照信氏、古い建物のカメラを収集していた一木努氏、マンホールのふたのデザイン収集をしていた林丈二氏らにより1986年に発足。その後新たなメンバーも加わり、「通常は景観とはみなされない看板や貼り紙、廃屋などを「見立て」によって楽しむ知的な遊び」を全国各地で実施しています。

前号のこのコーナーでは「路上観察学会」の経緯や赤瀬川さんにとっての路上観察の魅力などについてお話を伺いましたが、今回はその続編として、ご自身の「路上観察作法」や活動の中で面白エピソードなどをお聞きしました。また、赤瀬川さんが今までの活動の中で撮られた路上物件写真の中から、選りすぐりの傑作の数々を誌上でご紹介させていただきますので、ご本人の軽妙なコメントと合わせてお楽しみください。

「路上観察」の達人

赤瀬川原平氏 ②

うっとおしい梅雨の季節が終わり、太陽がキラキラと輝きはじめたら、いよいよ本格的な夏が到来。皆さんも海へ、山へとレジャーに出かけたり、懐かしい故郷へ帰省されるのを心待ちにしておられるのではないのでしょうか。

そんな旅の記念撮影用にカメラを持っていったなら、目的地でのスナップだけでなく、道すがらの何げない光景にもレンズを向けてみてはいかがでしょう？その土地ならではの特徴的な建物や、「おや？」と思うような面白い被写体を発見できるはずですよ。

こうした日常風景に目を向ける楽しみを、「路上観察」の達人にご紹介していただくこのコーナーも、いよいよ今回が最終回。前号に引き続き赤瀬川原平氏にご登場いただき、ご自身の実践している「路上観察活動」に関するお話をうかがいました。



あかせがわ げんぺい
1937年横浜生まれ。画家・作家。60年代は前衛芸術家として活動し、その後イラストレーターとして活躍。81年には「父が消えた」(文春文庫)で芥川賞を受賞。著書は「超芸術トマソン」(白夜書房・ちくま文庫)、『東京路上探検記』(新潮文庫)、『千利休—無言の前衛』(岩波新書)、『名画読本』(光文社)、『正体不明』(東京書籍)など。



「蓮」香川は瓦屋根が目立つ土地だが、この蓮を型とった瓦は遠くから見ると鶴に見える。蓮は仏教に深い関係があるので、お寺の装飾によく用いられている。香川県の土庄町にて。

「路上観察」の達人 赤瀬川 原平氏②



「立体派の塀」直角のブロックに斜めの坂道。角と角とが合わなくなり、ブロックを切って合わせたら、とんがって船の舳先みたいになった。屋敷がこれから船出するみたいだ。香川県の豊浜町にて。



「の」の字を書いて、あら恥ずかしや「ホースとパイプの口が寄り添ってひそひそ話をしている。」「の」の字なんか書いていちゃって、恥ずかしがりやのホースだね。埼玉県川越にて。



「番犬のアヒル」アヒルを鎖でつないで、瓦を小口揃えにして囲っている。この瓦がなかなか豪華な敷居。多分前の家を壊した時の瓦で、廃物利用。埼玉県川越にて。



「土手に下ろさ」「土手に上ろさ」ってのはよくあるけど、「下ろさ」っていうのは珍しい。でも土手より上にあるんだから、洪水の心配はない。埼玉県の大宮にて。



「待ち構えるライオン」いつもは門番のライオンである。時にはドアから出てくる人をビックリさせることもある。香川県の高松にて。



「あ」の矢印がなんとも念入りすぎる。「そんなに言われなくてもわかってらいい！」と怒り出す人もいそう。埼玉県の加須にて。



「五本脚の招き猫」アレっ？脚が前と後ろに二本ずつあるのに、招いている手がもう一本！「招き専用の手」だね。埼玉県の熊谷にて。



「洋裁学校」埼玉の古い民家・商家は、和風でも洋風でもそれなりに路上の味わいを出している。この洋裁学校も堂々たるものだね。埼玉県知事公認！埼玉県の秩父にて。



「駐車禁止だけど」駐車禁止といいたいが、「一時駐車は…」というのは矛盾している。禁止だけとせめてものお願いなんだね。埼玉県の大宮にて。



「童の歩道橋」埼玉は歩道橋大国。この歩道橋はジェットコースター化して、まるで「童の舞」みたいだ。埼玉県の浦和にて。



「ぶつ切れた階段の歩道橋」道を横切ったらいきなりこれがあるって、つい写真に撮っちゃった。歩道橋というよりも、とっさには「ぶつ切れた階段」があると思った。埼玉県の浦和にて。

申し訳ないけれど「路上観察」って、人の家の裏を覗いて歩くようなモノですよ。

我々が路上観察活動をしていて、その地方では当たり前前の光景なんかを珍しうに撮影したりしていると、たいてい地元の人たちからはいぶかしげな目で見られますね。藤森さんなんかはそれでも臆せずガンガン行く人ですから、人の家なんかにも入って行って、犬に吠えられたりしてますけど（笑）。私なんかは、人に見つかると慌てて取り繕ってしまったりするんですよ。「あ、ちょっと取材で！」とか言って逃げてしま（笑）。そんなもつともらしいコトを言うのと、かえって怪しまれるんですよ。その

どで発表する時に、我々がその物件に対して感じた面白さを見る人にも伝えるには、やはり文章によるちょっとした解説や物件のネーミングが必要なんです。でも、これが意外に難しいんですよ。あまり言い過ぎでは解釈の押しつけになってしまうし、言い足りないポイントが伝わらなくなってしまう。路上物件の場合、そのちょっと付け加えるコメントのサジ加減に結構苦労してるんですよ。路上観察活動をした後に、学会の仲間たちと成果の発表会を開くんですけど、その時にダジャレなんかを交えながら、それぞれの物件についてああだこうだと言ひ合うんです。気の利いたコメントや傑作ネーミングっていうのは、そんな中から生まれてくるコトが多いですね。それともうひとつは、何となく面白いなと思って写真を撮っても、この時点ではまだ自分の中で、その物件に対する明確な視点が定まっていないう時も往々にしてあるんです。その面白さの本質が、自分でもはっきりとはつかみ切れていないんですね。それにコメントを付けて言葉で表現することによって、その面白さがだんだんつかめてくるんですよ。「とにかく面白かった」では、見てくれる人に対して説得力がないので、その面白さを言葉にしてみると、「あそこが面白かったんだ」ってことが、自分でも確認できるんです。また、見る人によって面白いと感じるポイントは多少違うと思いますから、みんなだ批判し合うことによって、同じ物件に対して全然違った見方が出てきたりもするんです。そういう意味でも、物件写真のコメントっていうのは重要なんです。

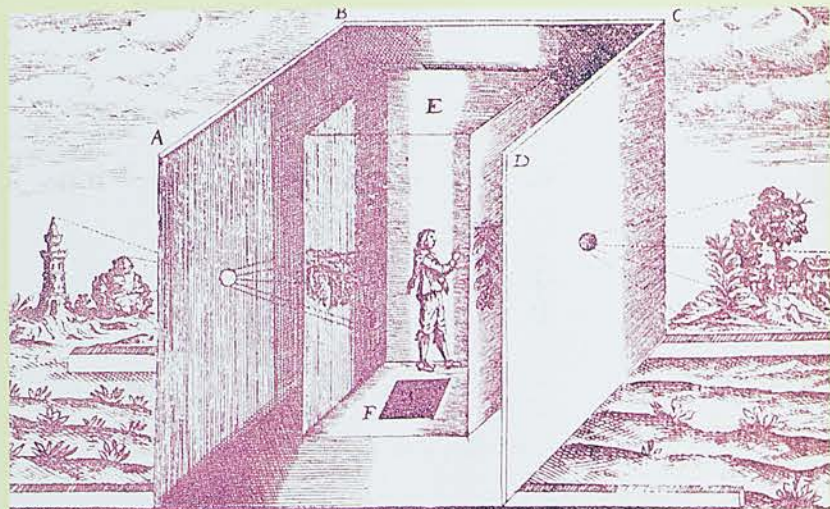
とっては全く興味がわかないんです。それよりむしろ、玄関の脇の所がちょっとほころびていたりする方が、我々には面白いんですよ。持ち主にとってはあまり見られたくない場所とか物っていうのが、目立たないところにひっそりとあったりするのがいいんです。これだけ路上観察に力を入れていると、普段でも道を歩きながらキョロキョロしてしましうし、タクシイに乗っていても、「あっ、アレは何だ？」ってつい路上の物件が気になってしましう時もありますね。かといってタクシイに「そこで止めてくれ」とは言えず、遠ざかる物件を後ろ髪引かれる思いで振り返るだけなんです（笑）。だから海外に行った時でも路上観察はしつかりやっています。例えばベトナムなんかに行くと、人々は結構みんな几帳面なようで、たくさんの自転車が同じ角度で斜め

路上の面白物件を心から遊びで楽しんでいる南伸坊さんに、「路上観察学」を論理的に追求する赤瀬川原平さん。このコーナーでは、4回にわたって、「路上観察」の達人「おふたり」のお話を伺ってきました。「路上観察」の楽しみ方はそれぞれですが、皆さんもおふたりのお話を参考に、自分流の「日常風景」の見方を発見し、写真の楽しみをいっそう広げていってください。

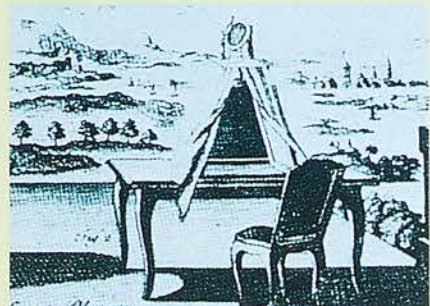
レンズ物語 前編

ガラスから生み出された大発明

今日の一眼レフカメラでは考えづらいことですが、昔はファインダーの窓とレンズが別々になっていましたので、カメラのレンズにキャップを付けたまま撮影をしてしまった、という笑い話がありました。もちろん、写真は真つ暗でも写っていません。カメラにとって、レンズはフィルムや印画紙といった感光材料に画像を焼き付ける、何よりも大事なもののなのです。



初期のカメラ・オプスキュラでは、中に入って像を観察できるものも考えられた(1646年)。



外部ミラーとレンズの組合せによって像を反転させるタイプのカメラ・オプスキュラ。

レンズは天体観測をする望遠鏡から人体の内部を観察する内視鏡、あるいは顕微鏡など、様々な分野で重要な役割を演じています。このレンズの持つ、遠くのものや小さなものを大きく見せる効果の発見は氷の観察からだったといわれています。

ですので、1万年以上前から知られていたこととなります。しかし、実用となるとガラスの登場を待たなければなりません。

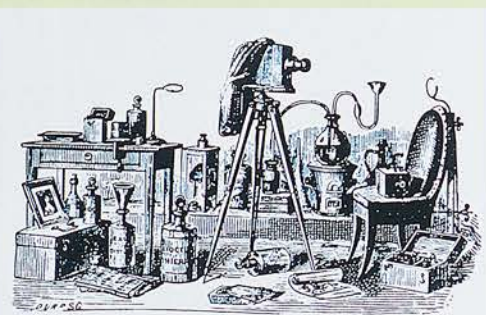
ガラスの存在は紀元前数百年前には、すでに知られていました。ローマの歴史家プリニウス(西暦23~79年)による著書「博物誌」の記述によれば、地中海貿易で名高いフェニキア人が、ある時、河岸の白砂の上で炊事をするために、

台となる石を探していたのですが、手頃な石塊が見つかりません。そこで商品として船に積んであった天然ソーダの塊を台にして使用したところ、熱に溶けて流れだし、白砂にしみみて冷えた後に、透明の物質ができていました。これがガラスのルーツだ、という少々できすぎたエピソードを伝えています。現在でもガラスは石英と炭酸ナトリウムを主成分として、ルツボで溶かし作られており、エジプトでは炭酸ナトリウムが天然ソーダが塩湖のほとりで地表に剥き出しになっていますから、ガラスの製法が偶然に発見された可能性はかなり高いと思われる。ギリシアでは紀元前4世紀頃に、ユークリッド、デモクリトス、アリストテレスといったギリシアの賢人たちの多くが、光とレンズに深い興味を示していたことをうかがわせる記述を残しています。

その後レンズの光学的な原理や法則が徐々に明らかにされてゆき、1300年頃には凸レンズが老眼鏡として実用化され、凹レンズが近視に役立つことが発見されました。こうしたレンズの特性が応用され、最初に開発された複合的な光学機械は顕微鏡です。

1500年代から1600年代にかけてオランダのスネルやデカルトらに

よって光の屈折の法則などが発見され、レンズの効果が科学的に説明されるようになります。1558年にはガリレオが現在の地上用望遠鏡を発明しました。この時代に、後のカメラのレンズに応用される基礎が、急速に築かれていきました。そしていよいよカメラが登場するわけですが、それは次号で説明いたします。



ダゲレオタイプを撮影し処理をするためのおびただしい道具だて—版画



1525年、ラファエロによって描かれた「法王レオ10世の肖像」：手中に眼鏡が。

写真おもしろい歴史 17

Nikon



Nikon F5

希望小売価格(税別)
ボディ本体(ストラップ付) ¥325,000
AFニッコール50mmF1.4D付 ¥363,000

ニコンF5は3年保証。お客様の信頼に品質でお応えします。(ニコンF5ボディ本体は、保証書に記載の保証規定によりご購入日から3年間、保証修理をいたします。くわしくは、当社サービス機関にお問い合わせください。)

株式会社 ニコン 本社 100-8331 東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル)
製品に関するお問い合わせは「お客様相談室」まで。電話(03)3216-1010 FAX(03)3287-0897

京セラ株式会社



CONTAX AX

Automatic Back Focusing System

- 永年愛用のカル・ファースT★レンズがそのまま使える画期的なAFシステム
- 新開発オートマチックバックフォーカシング方式
- 作画重視の測光方式、中央重点平均測光/スポット測光
- 高精度 最高速1/6000秒縦走りフォーカルブレンシャッター
- チタンカバー採用の強靱なアルミダイキャストボディ
- 絞り値、シャッター速度、露出モード、露出補正値の撮影データ等を記録できる専用データバックD-8
- メーカー希望小売価格: 本体 250,000円 データバックD-8 68,000円(税抜き価格)
- お問い合わせは: 京セラ(株)光学機器事業本部 〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8 TEL:03-3797-4611(代)



「通潤橋」(つうじゅんきょう)9月初めの八朔祭(はっさくさい)の日には、2時間おきに放水が行なわれ、夜8時からは花火が打ち上げられる。
 ■カメラ:キヤノンT90 レンズ:20mm 絞り:f4 シャッタースピード:20秒 フィルム:ペルビア 三脚使用 撮影地:熊本県矢部町



「近戸橋」(ちかどほし)世界最大の単アーチ橋であるが、半分がダムに沈んでいるため、それほど大きな感じさせない。
 ■カメラ:ペンタックス67 レンズ:105mm 絞り:f1.5.6 ショッタースピード:1/125 フィルム:フジRDP 三脚:スカイライトフィルター使用 撮影地:大分県臼杵市



「笹無田若宮井路橋」(ささむたわかみやいろぎょう)鉄道の近くにかかる眼鏡橋は少ない。アーチ橋のそばを列車が走る姿はなかなか絵になる。
 ■カメラ:キヤノンT90 レンズ:28mm 絞り:f4-5.6 シャッタースピード:1/250 フィルム:プロビア スカイライトフィルター使用 撮影地:大分県竹田市

THE
 フォトワールド
 13

「眼鏡橋」を撮る

かけがえのない風景の存在を、多くの人々に伝えたい。
 織田寧人氏(写真家)

九州地方には古くから「石」の文化があり、その代表的なもののひとつが石橋である。石橋は江戸初期に長崎から広まったとされ、木の橋が水害に弱いこともあって、特に江戸末期頃から盛んに建造されたという。川を渡る人道として、また時には灌漑用水路から水田に水を引くための水路橋として造られた2連アーチの石橋は、その水に映る姿がメカネに似ていることから特に「眼鏡橋」と呼ばれ、今も人々に親しまれている。「面白いことに、地方によっては「太鼓橋」「車橋」など違った呼び方もあるんですよ」と説明するのは、今回お話を伺った織田寧人氏だ。

織田氏はもともと鉄道写真を主に撮影していたが、7年前より西洋館などの建築物を撮り始め、そうした中で眼鏡橋とも巡り合ったという。そして現在までに、九州を中心に約500か所の眼鏡橋を訪ねてその姿を作品に残している。「今から百年以上も前に建造された眼鏡橋が、石組みのゆるみもなく現役として使用されている姿にまず感動しますね。またそれぞれの橋には、建造に関わった住民や石工たちの様々な物語があることに興味を覚えます。そして何よりも、その造形美に惹かれました」と織田氏は眼鏡橋の魅力を語る。

氏の撮影は、文献によってそれぞれの橋にまつわる歴史や、その所在地を確認することから始まる。各市町村から取り寄せた資料をもとに、県別道路地図に橋のある場所を記入し、独自の「眼鏡橋マップ」を作成しているという。「もしこれから石橋の撮影を手がけたいという方でしたら、国や県の文化財に指定されているもの、有名な石工が建造したもののから始められると良いと思います。石橋の密集している市町村では「石橋マップ」を作成していますので、それを入手するのが一番です。実際に行ってみて見つかからない時は、通りがかりの人に聞くと良いでしょう。比較的高齢者の方がよくご存じですよ」と、数多くの橋を撮り続けてきた織田氏ならではのアドバイスもお聞きすることができた。

ただし準備万端で撮影地へ赴いても、目的の眼鏡橋が簡単に見つからないことも多い。

「鶴の平眼鏡橋」(つるのひらめがねばし)高千穂の峡谷の渓流に、形の美しい眼鏡橋がかかっている。水は澄んで、夏でも冷たい。
 ■カメラ:ニコンF4s レンズ:24・50mm 絞り:f8 AE フィルム:ペルビア 三脚:スカイライトフィルター使用 撮影地:宮崎県高千穂町



大きなものを失っているのではないのでしょうか。眼鏡橋のある風景はかけがえのない文化遺産であり、その存在を作品によって多くの人々に知っていただきたいのです」と強調する。織田氏は眼鏡橋以外に古い西洋館や灯台なども撮影しておられるが、我々も時にはこうした貴重な建築物を撮ることで、それらの重要性について考え、少しでも環境や文化財の保存につなげてゆきたいものである。



「間戸橋」(まどほし)山間の小さな川にひっそりとかかっている眼鏡橋の姿が、なぜかいつまでも忘れられない。
 ■カメラ:ペンタックス67 レンズ:55mm 絞り:f8 シャッタースピード:1/180 フィルム:ペルビア 三脚使用 撮影地:大分県三重町

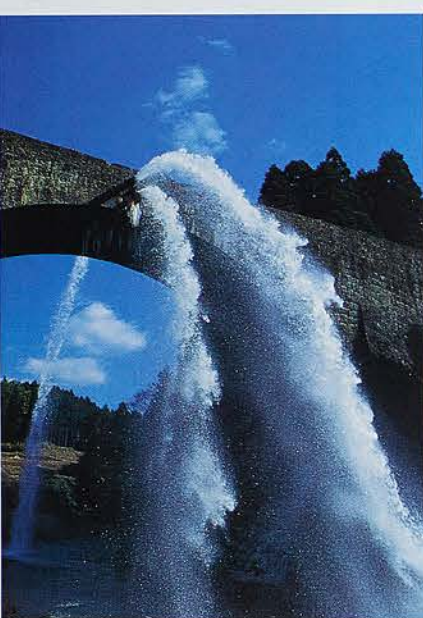


おだ やすひと
 1942年福岡県生まれ。東北部大学経済学卒業後、東陶機器(株)に勤務。消えゆく蒸気機関車を

撮影するため、1970年代からカメラを手にする。1990年代より西洋館・眼鏡橋・灯台など近代建築の撮影も手がける。写真集は「天主堂巡礼」「眼鏡橋巡礼」(光村印刷)を発行。日本石仏協会会員、日本ナショナルトラスト会員。

きり近づくと、石のぬくもりが写真になっても伝わってくるんですよ。また、周りの風景との明暗

「通潤橋」(つうじゅんきょう)放水は、もともとは導水管に詰まった泥やゴミを流すためであったが、今は観光客向けに行なわれている。
 ■カメラ:ペンタックスZ-5P レンズ:28~70mm 絞り:f5.6 AE フィルム:プロビアスカイライトフィルター使用 撮影地:熊本県矢部町



「通潤橋」(つうじゅんきょう)放水は、もともとは導水管に詰まった泥やゴミを流すためであったが、今は観光客向けに行なわれている。
 ■カメラ:ペンタックスZ-5P レンズ:28~70mm 絞り:f5.6 AE フィルム:プロビアスカイライトフィルター使用 撮影地:熊本県矢部町

特にあまり知られていない橋は、捜し当てるまでに時間がかかることを覚悟して行く必要がある。「でも、眼鏡橋を捜すプロセスも撮影の楽しみのひとつなんです。散々まわり道をしてやっと目標の橋にたどり着いた時は、喜びもひとしおです」と笑って語る織田氏が、それよりも苦労するのは、撮影の邪魔になる人工の構造物や川のゴミがある時だという。ゴミの場合は、カメラを構えるより先に川の掃除から始めなければならぬので、掃除道具も撮影には欠かせない。また近年は宅地開発や河川改修などにより無粋な構造物が増えており、これらを画面に入れないよう、アングルに苦労することも多いという。

眼鏡橋の撮影において、何か技術的なコツはおありなのかと伺ってみると、「他の撮影に比べて特に難しいことはありませんが、あまり撮影位置を後ろに引けない場合も多いので、広角レンズは必需品ですね。特に多用したのは24ミリと28ミリです。眼鏡橋に思いつきり近づくと、石のぬくもりが写真になっても伝わってくるんですよ。また、周りの風景との明暗

差が激しい場合も多いので、露出を変えて何枚か撮る、つまり段階露出をしっかりと押えておくことが大切だと織田氏は付け加える。「私が日本一の石橋だと思うのは、重要文化財にも指定されている熊本県矢部町の「通潤橋」ですね。世界最大の石造アーチ水路橋であり、深い谷に囲まれた白糸台地に灌漑用水を供給しているんです。阿蘇外輪山をはるかに望む周囲の景観も含めて、そのそばに立つ姿は眼鏡橋の最高傑作ですよ」と語る織田氏。およそ150年前、水に恵まれずに貧しい生活を送っていたこの地の農民のために、石工の兄弟が苦難の末に作り上げたという逸話が残るこの橋では、毎年9月初めの祭りの日に、放水や花火の打ち上げが行なわれ、観光スポットとしても知られている。またこれとは対比的に、大分県三重町の「間戸橋」や、宮崎県高千穂町の「鶴の平眼鏡橋」など、山間にひっそりと佇む無名の橋も、織田氏は好んで撮影するという。「しかし現在では、環境破壊と川の汚染が確実に進んでいます。また、護岸工事や道路の拡張などにより、撤去される眼鏡橋も目立っています」と嘆く織田氏。「便利さを優先させるために、我々は

高画質と簡単操作を両立させた、世界初のAF中判一眼レフ。

「スーパーフィールドカメラ」のキャッチフレーズのもと、屋外での撮影に適した中判カメラとして、1984年に発売されたペンタックス645。それ以来14年間にわたるロングセラーを続けたこの機種の後継機として、ペンタックス645Nが昨年発売されました。今回は、ペンタックス伝統の小型軽量ボディを継承した、世界初のAF中判一眼レフカメラとして注目されている、ペンタックス645Nの開発についてお話を伺いました。

ペンタックス645N (1997年発売) レンズ交換式の中判一眼レフでは世界初のAF化を実現した6×4.5判カメラ。35mm感覚の機動性と操作性を誇ったペンタックス645をベースに、ペンタックス独自の高精度AFシステムSAFOX IVをはじめとした数々の最新機能を搭載。



「スーパーフィールドカメラ」を継承しつつ、新たにAFを搭載。

ペンタックス645が発売された当時、6×4.5判の一眼レフにおいて、機動性を重視するという発想はあまりなかったといっている。そうした中でペンタックスは、35mm一眼レフ感覚で使える「スーパーフィールドカメラ」という独自のコンセプトにより、645を開発した。そして645のもつ機動性・操作性といった基本性能や、中判カメラとしての高画質を継承するとともに、最新技術による新機能を取り入れて昨年登場したのがペンタックス645Nである。「具体的には簡単操作、つまり解りやすさが開発テーマですね。その代表的なものがAFシステムの搭載で



旭光学工業株式会社開発企画室主務 石井弦一郎氏

35mm一眼レフではもうAFがあたり前の時代ですから、そういったカメラを使用している方々に中判も使っていただくには、AF化は当然の流れといえるでしょう。また、従来のペンタックス645を使っていただいている方にもスムーズに移行していただけるように、操作性の継承やシステムの互換性にも

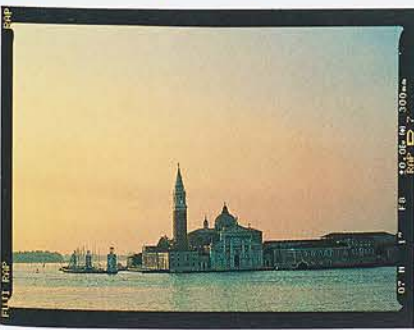
こだわりました」と旭光学工業(株)カメラ開発企画室主務の石井弦一郎氏はこのカメラの狙いについて述べる。

645Nが誇るこのAFシステムについて、第二開発設計部の小林匠室長は「MZ、5など35mmカメラで培った当社独自のAFですが、ピントの検出範囲の広い高感度のセンサーを採用しており、より精度の高いフォーカシングができるのが特徴です」と説明する。

「AF機構をボディ側に入れるか、レンズに内蔵するかでかなり議論し、結局ボディ側に入れることになったのですが、今度はそのスペースの確保に苦労しました。AFを搭載したために、重く大きくなってしまいうのは、本来の狙いで



6×4.5判と35mmのフィルムサイズの差が、写真の諸調や粒状性、ディテールの再現性の違いを生み出している。
上：35mm判/実画面寸法24×36mm
下：6×4.5判/実画面寸法56×41.5mm



なお、645Nで撮影した下のフィルムには、「撮影データ写し込み機能」により、露出やレンズ焦点距離などのデータが自動記録されている。



旭光学工業株式会社第二開発設計部室長 小林匠氏

ある機動性に欠けてしまっていますから」と開発にまつわるエピソードもお聞かせいただきました。

このAFシステムは3点のセンサーで広い範囲に合焦する「3点AF」と、1点にピントを合わせる「スポットAF」とが撮りたい構図や被写体によって使い分けられる。さらに被写体にピントが合った時点でフォーカシングが停止するシングルと、動態予測で絶えず被写体を追って合焦し続けるサーボとがあ

り、撮影意図に合わせたモードが選べる。また、MF撮影をしたい時は、レンズ側でワンタッチ切り替えができるのも便利な特徴だ。そのほか、2種類のセンサーで精度の高い測光を可能にした新開発の測光システムや、露出などをフィルムに記録できる「撮影データ写し込み」なども645Nならではの機能。さらに中判カメラは高齢者のユーザーが多いということも、645Nにおいてはファインダー内表示を大きく見やすしたり、昔のタイプのカメラと同じように、直感的に解りやすいダイヤル式の操作系にしているといった配慮も見られる。

屋外撮影での使い勝手を重視し、ユーザーの支持を獲得。

ペンタックス645から「スーパーフィールドカメラ」のコンセプトを継承した645



旭光学工業株式会社デザイン室 藤井明夫氏

Nは、当然のことながら風景など屋外での撮影に適した設計がされている。例えば屋外でも見やすいアイレベルファインダーの採用や、三脚撮影のために縦位置用・横位置用ふたつのネジ穴が設けられているのがその現れだろう。また手持ち撮影の場合でも、グリップのホールディング性が縦・横どちらでも握りやすいように工夫されている。「645のボディに何種類か試作したグリップを付けて、何人もの人に握ってもらって意見を聞き



旭光学工業株式会社第二開発設計部 川上聡一郎氏

ました。やはり縦と横では持ち方が変わるもので、あまりびったりと手の形に合わせてしまわずに、どちらでもしつかりと手に掛かるようにすれば、最も使い勝手が良いのではないかと考え、この形になりました」と話すのは、工業デザイン室の藤井明夫氏。握りやすさを重視したため、グリップ部分は最初の予定よりも若干大きくなったが、それ以上の使用メリットを与えることができたという。

「屋外撮影や風景写真以外の用途に合わせた機能を搭載すると、その分大きく、重くなってしまうので、このカメラに関しては、より屋外撮影向けの使い勝手に絞った設計になっています。カメラショーに645Nを出品しても、我々が意図したとおりに屋外での使用をお考えの方には100%満足いただいていると思います」と第二開発設計部の川上聡一郎氏は語る。こうしたスタッフの

PENTAX



●ボディ正面
耐久性に優れ、レンズ交換も素早く容易なAFマウント。その奥にあるフォーカシングスクリーンは、撮影スタイルに合わせて交換が可能。



●ボディ背面
ファインダーの左右にあるAFモード切り替えレバーとAFエリア切り替えレバーは、撮影中に親指で操作可能。グリップ右上のメモリーロックボタンで露出値の記憶ができる。



●ボディ左側面
右下の多重露出レバーを設定すれば、何度でも正確な多重露出が行なえる。中心部左側のネジ穴は三脚の縦位置取り付け用のもので、風景撮影などに役立つ。



グリップ上部には大型LCD表示パネルを搭載。フィルム感度とフィルム枚数を中心とした常に把握しておきたい重要な情報を、大きく見やすい文字とマークで表示。

自信が示すとおり、645Nは当初の販売予定の2倍以上という好調な売れ行きを達成し、現在生産が追いつかないような状況だと聞く。今まで中判カメラを扱ったことのない皆さんも、35mm感覚の645Nで、中判による風景撮影にチャレンジしてみたいかがだろうか。

海辺の風景に夏の被写体を求める

夏といえば海。海辺の砂浜はどこでも

多くの海水浴客で埋まります。また、写真に興味としての方なら、海を被写体として撮影する機会も増えるのですが、そこで「おやっ」と思った方も少なくないはず。これはとって撮った写真が、被写体が海の場合は、思いの外、つまらない写真だったりする事が多いのです。

これは山ならばファインダーで覗いた画面の、上下左右に変化があるのに対して、海の景観には変化が乏しいためなのです。また、海の日差しや紫外線の強さ

も、撮影時には要注意。

そこで今回は、こうした海での撮影のポイントと道具に関する注意について解説します。

画面のアクセントのつけ方に工夫しましょう。

山や里では木々の緑の色のつき具合や草花によって、季節の変化を写真に捉えることは難しいことはありませんが、被写体を海とした場合は、そのままでは季節感が出ません。素肌感じられる風の冷たさや空気のの違い

も、写真で表現する

となると非常に難しくなります。見た目ではキラキラとした真夏の海も、写真になるとノッペリとした平面的な景色になってしまうのです。

そこで海を被写体とする場合には、季節感や印象を深める



フィルター未使用



ケンコーレッドエンハンサーフィルター使用

ような撮影を心がける必要があります。具体的には画面に変化を与える材料を、意識的に入れる工夫がいるのです。材料はケース・バイ・ケースで、一概には言えませんが、人物や入道雲を配すだけでも、海の写真はいきいきとしてきます。

海の水平の広さを利用して、パノラマ写真を使用するのも面白いのではないのでしょうか。ただし、パノラマの場合はフィルム面が小さくなりますので、フィルム感度は50程度の低いものを使用する方が有利です。

露出は光の方向と撮影意図に合わせて決めましょう。

一般的に風景を撮る場合、カメラマンが太陽を背にした順光の撮影では写真に立体感が

なくなり、平面的な画面になりがちです。斜光、逆光、あるいは半逆光での撮影が多くなります。特に被写体に対して陽光が斜めに当たる斜光の撮影は、立体感が強まりますので風景写真に適しますが、真夏の陽光の直射の下では、日の当たった部分と日陰の部分での露出差は大きくなりますので、露出には注意がいります。

カメラにスポット測光の機能がある場合には、画面の日の当たった明るい部分と、日陰の暗い部分の測定を行って、その中間に露出を設定するといいでしよう。状況にもよりますが、露出補正はどちらかというところから補正した方がきれいなグラデーションが得られます。

逆光、半逆光での撮影では被写体の明暗の



海の朝焼けや夕焼けを撮影するには。

海の朝焼けや夕焼けは絵になる景色です。画面の中で、海に向かって大きく浮かんだ朝陽や夕陽の太陽の写真を、どなたでも一度は目にすることがあるのではないのでしょうか。しかし、35ミリフィルムに写る太陽の大きさは、100ミリレンズで約1ミリ、500ミリレンズを使用した場合でも、5ミリ程度しかありません。これ以上大きな太陽を写す場合には、相当な超望遠レンズが必要になります。

また、朝夕の空が全体的に赤い時には自動露出で撮影しても、見た目に近い写真が得られませんが、太陽の光が強い時には露出不足になりやすいので、プラス側に補正するといでしょう。

海の撮影にはこれがあると便利です。

海の撮影では逆光・朝焼け・夕焼けと、太陽に目を向けることも多くなりますので、目を保護するためにもサングラスを忘れずに持参しましょう。また、水面の反射を抑えるPLフィルターはぜひ持って行ってください。また朝焼けや夕焼けでは、フィルターを利用して演出するのもよいかと思えます。

日中の逆光、反逆光の撮影で、影を抑えるためにストロボを利用することを日中シンクロナイトといいますが、海辺の強い日差しの下では特に影が強くなりますので、ストロボも忘れないようにしましょう。

また、海で撮影をするのですから、防水カメラを一台持っていく、水中写真にチャレンジされてはいかがでしょうか。撮影領域が大きく広がるうえに、きつと新しい写真の面白

さに出逢えることと思います。
メンテナンスも忘れずに。
海では潮風や砂の対策も忘れないようにしてください。カメラレインコート、防水性のバッグは必需品です。もしもカメラレインコートがないときに、波際で撮影しなければならなくなったら、カメラをタオルで巻き、レンズとファインダーのみ露出させて撮るようになります。万一カメラに波の飛沫がかかってしまった場合には、すぐに半濁きの布でふき取り、さらに乾いた吸収性の高いタオルなどで水分をふき取ります。その後早い時期にサービスセンターに持って行って、点検してもらいましょう。

海での撮影を終えた後は、カメラのメンテ

ランスを忘れずに行いましょう。一眼レフは最初レンズを外さずに、エアードスターなどで表面についた砂を丁寧に吹き飛ばした後、マウント部分を掃除しますが、くれぐれも砂がカメラ内部に入らないよう注意しましょう。細かな砂粒がレンズの表面につける傷は、二度と修復できません。決してこすらないようにしてください。

潮風や砂のある海辺はカメラには過酷な環境です。しかし、わたしたちに夏をこれほど感じさせてくれる場所もありません。対策とメンテナンスに十分に注意して、水平線を相手にファインダーを覗いてみてください。きっと、素敵な夏の風景が、レンズ越しに待っていることでしょう。

カメラのキタムラ 第6回チビッコ写真コンテスト開催!

- 募集期間：平成10年7月15日(水)～8月31日(月)
- 賞金・賞品総額：150万円

※詳しくは、7月中旬よりカメラのキタムラ各店に設置されるポスターまたは応募用紙をご覧ください。



第5回チビッコ写真コンテスト 最優秀作品「夏休み」中出雅士



第5回チビッコ写真コンテスト グランプリ作品「仲よし」戸田栄作



が白く飛びます。自分の撮影意図に適した方に露出を合わせてください。どちらに露出を合わせるにしても、意図的にフレアのある写真を撮ろうというのでない限り、レンズに直接陽光が入らないように注意しましょう。

差は斜光よりも大きくなり、露出測定はカメラまかせの自動露出だけでは難しくなりま。影を活かして被写体を意図的にシルエットとして扱う場合には、明るい部分に露出を合わせます。また、暗い部分に露出を合わせた場合は明るい部分

RICOH

高次元の描写力。



- GR1sの主な特長 ●GR LENS 28mm F2.8は、非球面レンズ採用、4群7枚オールガラスのマルチコーティングで優れた描写力 ●暗い状況下での撮影にとても便利な光る情報パネル ●逆光時の撮影に重宝する本格的な花型フードを装備 ●ナチュラルな画像を生むディストーション性能の良さ ●ニュートラルな発色のCC1分光透過率 ●高精度7ゾーンバツパ方式マルチオートフォーカス ●美しいボケ味のために考慮された7枚構成のレンズ絞り羽根 ●シンプルで明るいフラッシュファインダー ●絞り優先AE ●露出補正ダイヤル ●主な撮影モード：フラッシュ強制発光モード(日中シンクロ/スローシンクロ可) ●フラッシュ発光禁止モード ●オートフラッシュモード ●遠景モード ●シングルAF(LV6以上中央重点測光)モード ●スナッチモード ●フォーカス固定モード ●赤目軽減モード ●セルフタイマーモード ●タイムモード等

GR1s

- (ボディカラー：ブラック/シルバー)
●メーカー希望小売価格(フード・革ケース込)
GR1s ¥95,000(税別)
GR1s DATE ¥105,000(税別)

リコーカメラお客様相談窓口 リコーカメラについてご意見・ご希望がございましたら下記までご連絡ください。

〒104-0061 東京都中央区銀座6-14-7 株式会社リコー パーソナル事業部
受付時間 月曜から金曜/9:30~17:00
FreeDial 0120-007962 ●土曜・日曜・祝日はお休みさせていただきます。

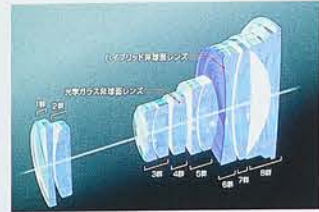
OLYMPUS
人から発想します。オリンパス



美しさ、機能だけではない。
μ・新基準

薄型ボディ・高倍率130mmズーム

このクラスの常識を破る46mmの超薄型ボディに、ミューならではの美しいデザインを踏襲。レンズの全てにガラスレンズを使用。更に光学ガラス非球面レンズとハイブリットレンズを採用し、高精度のマルチバッシュAFとのベストマッチングによりシャープな写りを実現。



高倍率ズームに対応する大光量の新型フラッシュも搭載。もちろんオリンパス独自の生活防水付です。



130mmズームで
超薄型ボディ46mm
ミュー
μ[mju:] ZOOM 130
希望小売価格(税別)
¥62,000 (リ モコンケース・ストラップ付)

ひろびろ揺れる便利な
ミューズーム
ワイド80 登場

ちゃんと調べて、ミューにした。

PENTAX

夢だった。



プロの高画質を、
すべての写真ファンのものに。
645N誕生

新発売



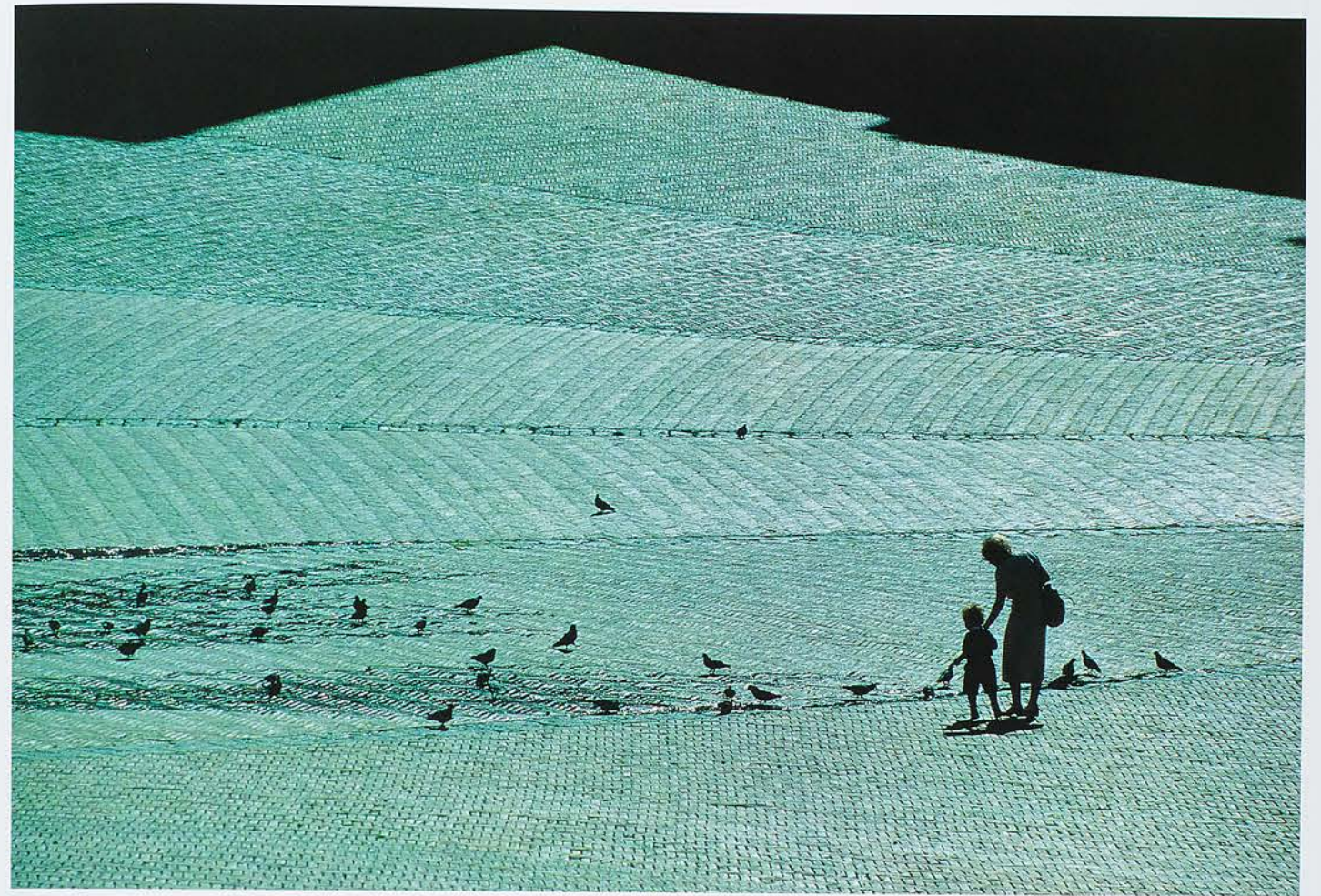
AFスーパーフィールドカメラ

645N

ボディ希望小売価格(税別) 300,000円
FA645 75mm F2.8付 希望小売価格(税別) 360,000円

旭光学工業株式会社・ペンタックス販売株式会社
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1
●製品についてのお問い合わせは、お客様相談室へ。03(3572)6479
●インターネットホームページ <http://www.pentax.co.jp/>

SIGMA



O U R
W O R L D

石畳の広場を渡る風には、歴史の重さが薫っていた。トスカーナ紀行。
Michael Yamashita / PPS : 1949年サンフランシスコ生まれの日系3世。自分のルーツを探るために訪日のときから、写真撮影を始めるようになった。現在は、ナショナル・ジオグラフィック誌を中心に活躍する。
撮影データ：APO70mm~200mm F2.8 EX HSM、1/25秒 F8

マイケル・ヤマシタが世界を撮ったとき、手にしていたレンズはシグマだった。

中世の街並み。止まっているかのような時の流れ。そこに暮らす人々。現代人を魅了するトスカーナの風景を、シグマが撮った。各焦点距離とも絞り開放から、画面周辺まで高画質。ズームしてもフォーカシングしても全長が変わらないため、優れたホールディング性を発揮。前枠が回転しないので偏光フィルターの使用が容易、着脱式三脚座も標準装備。超音波モーター内蔵の高速AF高性能望遠ズームです。専用の1.4倍及び2倍APOテレコンバーターにも、高速AF対応。(別売)

NEW APO70-200mm F2.8 EX HSM

希望小売価格(税別)：140,000円
シグマSA用、キヤノンEOS用、
ニコン用 新発売

NEW APO 70-200mm F2.8 EX

希望小売価格(税別)：130,000円
ミニルタ用、ペンタックス用 新発売
ミニルタ用、ペンタックスマウントのAFは
ボディ内モーター駆動

●各商品には、着脱式三脚座、
ケース・パーフェクトフード付



優れた操作性と描写力を備えた高性能ズーム。
SIGMA Zoom Lenses

お問い合わせは、株式会社シグマ 〒201-8630 東京都江崎市岩戸南2-3-15 tel.03(3480)1431まで。

佳作 <20名> 賞金1万円と楯

応募総数約5,000点



入賞 <300名> 記念品と楯

- 北海道**
坂田誠二(札幌市)「もうきいはいやです。」
中山英雄(札幌市)「母の懐」
村井 宏(札幌市)「いつてきまーす」
片倉 鏡(札幌市)「犬と花(きれいだね?)」
赤部行男(札幌市)「テレビが好きなの」
浅井 実(函館市)「私の子猫」
若隈園美(帯広市)「つまみ食い」
柴田哲見(帯広市)「食べたい!!」
秋国為八(帯広市)「触ってもいい?」
中村 稔(旭川市)「ピクニック」
山上健一郎(士別市)「遠走(ばくそう)」
鈴木憲子(小樽市)「時代屋の猫」
三戸部 悦郎(苫小牧市)「ボクの遊び場」
今井敬一(江別市)「昼寝」
石原美津代(釧路市)「初対面」
町田三郎(常呂郡)「たくさん お飲み」
山岸哲史(山越郡)「さ・わ・る・ヨ」
柳折真治(山越郡)「私たち早期の親子です」
加藤達也(空知郡)「おいで!」
- 青森県**
八角明香(弘前市)「お留守番」
広田みえ子(弘前市)「お昼寝」
孫 玉妃(弘前市)「朝」
石 功(八戸市)「冬の浜辺で」
山口和男(南津軽郡)「指がいたい!」
- 秋田県**
高橋 寿(湯沢市)「散歩道」
新堀修一(秋田市)「食いしん坊」
五十嵐清光(鹿角市)「私の孫だよ!」
鈴木孝美(山北郡)「二人の友達とわのオヤミ」
- 岩手県**
朝志田 英雄(宮古市)「食事中」
- 宮城県**
伊藤広見(仙台市)「かけっこ」
小泉清孝(栗原郡)「冬の朝」
熊谷信子(桃生郡)「散歩」
- 福島県**
喜古康彦(福島市)「夜中にごっそり」
- 新潟県**
山梨文子(新潟市)「重たいなー!!」
高尾俊司(新潟市)「おでかけ」
山小雅弘(中頸城郡)「おそろいも 見えない」
- 富山県**
高田幸吉(富山市)「私のトンちゃん」
高宗 南海彦(富山市)「仲間」
杉浦 正(高岡市)「まなざし」
堺 裕子(高岡市)「おでかけ」
村田勝則(西砺波郡)「ミルク大好き子猫ちゃん」
阿部久仁博(埴負郡)「ハイ ポーズ!!」
中村 博(上新川郡)「ゴツラの昼寝」
- 石川県**
清水裕子(金沢市)「ボンジョルノ」
中村ひろみ(金沢市)「おやすみ」
渡辺 勝(金沢市)「気持ちいいよ」
北口尚美(小松市)「あーさっかおはねさっかおはねさっか」
- 茨城県**
小貝 斉(龍ヶ崎町)「いやーん やめて」
- 千葉県**
渡辺良人(成田市)「みんな家族」
栗原亜希子(佐倉市)「ないよ相談」
満井布時(市原市)「境界線」
奥田真純(柏市)「こんにちわ!」
近藤友紀子(長生郡)「ぼくんだい!!」
- 埼玉県**
増玉 小川原 宣也(上尾市)「ラクちゃん」
渡辺篤二(上尾市)「白馬エック」
須賀康弘(坂戸市)「バチャ(チャ)お散歩」
岩沢美江子(坂戸市)「たのしい」
- 東京都**
瀬元和子(坂戸市)「仲よし」
松本 勉(鶴ヶ島市)「ちゃんまげ?」
阿部 孝(鶴ヶ島市)「遊び」
古橋祐助(越谷市)「こんにちわ」
栗原保雄(深谷市)「さーこい!!」
若守正義(大里郡)「雪中行進」
- 東京都**
岡野高光(世田谷区)「仲よし」
小林英夫(大田区)「仲よし」
小室 三喜雄(足立区)「初秋のひととき」
市川 晃(八王子市)「晩酌のお供に」
近藤二郎(福生市)「戯れる」
市川龍子(青梅市)「たのしま」
松島国五郎(昭島市)「涼を求めて」
- 神奈川県**
大屋露高(川崎市)「ジャンプだ!エイッ」
慶森 知江美(横浜市)「見てほしい!!」
尾田美智江(横浜市)「虫歯あるかな?」
加藤 侯(横浜市)「お友達」
菅原 孟(横須賀市)「仲よし」
伊予田 一雄(厚木市)「おひるね!!」
栗原 隆(厚木市)「兄弟ンカ、仲りその1」
郡山百合子(厚木市)「雪遊び」
中野悦子(伊勢原市)「パンチ」
平本公義(藤沢市)「オインデショウ」
鳥居久美子(小田原市)「BEST FRIEND」
- 群馬県**
宮崎正造(新田郡)「仲よし」
- 長野県**
市岡正重(長野市)「極楽へ」
松下健二(長野市)「水遊び」
水野千代(長野市)「気分はどうかね」
吉田照人(長野市)「シャボン玉」
西條由美子(長野市)「アタシ しあわせ!」
西條 博(長野市)「影の(お)しあわせの?」
伊藤正一(松本市)「ねむいニャー」
角南俊文(松本市)「見つめる」
諸田 剛(塩尻市)「全員集合!」
渡辺増枝(上田市)「添い寝」
増田繁二(南安曇郡)「かもにおやつ」
丸山健二(南佐久郡)「いやー、まいったね」
高橋 進(小県郡)「私のこと好き?」
堀木清美(下伊那郡)「カメラ目録」
- 山梨県**
星野郁男(北都留郡)「雪とたわむれる」
- 静岡県**
長倉千津子(静岡市)「お友達」
松本幸男(静岡市)「にらめっこしましょ」
田端みづ子(静岡市)「はじめてまして…」
内藤愛子(浜松市)「親子でちゅ。」
松島真知子(浜松市)「やさしい朝」
橋本あかね(浜松市)「オット! あぶない!」
水谷ふさ子(浜松市)「さんぽ」
村松武男(藤枝市)「何してんの?」
大庭亜紀子(磐田市)「UFOに連れられるゾ」
望月正晴(清水市)「春の公園にて」
山田英雄(清水市)「仲よし」
清水貞代(周智郡)「散歩」
竹下耕一(周智郡)「散の中」
杉山茂次(周智郡)「散歩(さんぽ)」
藤見 清(小笠郡)「ホット親子」
渡辺和正(浜名郡)「愛しのHAPPY」
- 愛知県**
種井武朗(豊橋市)「ぼくのいいココちゃん」
鈴木康弘(豊橋市)「いたすら小僧」
崎草 長村清成(岐阜市)「子犬と散歩」
坂野 隆(岐阜市)「大好きなかぶと虫と」
土岐律子(多治見市)「にらめっこ」
- 岐阜県**
福井 三上 彰(福井市)「おともだち」
清水清隆(大野市)「ある晴れた日に」
- 滋賀県**
近藤繁明(栗太郡)「冬のさんぽ道」
山田増美(栗太郡)「かくれんぼ」
- 三重県**
小嶋裕史(四日市市)「なかよし」
三宅淳雄(松阪市)「仲良したち」
上北俊夫(名張市)「初めての友達」
市川 晃(八王子市)「Kiss」
渡辺充正(鈴鹿市)「お店番」
松本啓治(鈴鹿市)「ジャンプ」
一尾規子(鈴鹿市)「おさんぽ」
山崎明教(鈴鹿市)「散歩」
佐藤英雄(伊勢市)「おまが通る」
橋上 裕(伊勢市)「腫」
森 弘明(多喜郡)「みんな友達」
- 京都府**
吉谷民夫(京都市)「仲よし」
岩崎真哉(京都市)「たべてちょうだい」
栗原 隆(厚木市)「兄弟ンカ、仲りその1」
郡山百合子(厚木市)「雪遊び」
中野悦子(伊勢原市)「パンチ」
平本公義(藤沢市)「オインデショウ」
鳥居久美子(小田原市)「BEST FRIEND」
- 奈良県**
星川明美(奈良市)「モデル」
天野広勝(宇陀郡)「仲よし」
河合邦宏(北葛城郡)「家族」
山本省二(北葛城郡)「おやつ時間」
堀内 幸(北葛城郡)「はじめまして」
金森喜子(生駒郡)「タッチ」
- 和歌山県**
福本記三(海南市)「マスコット」
和田正英(西牟婁郡)「出会い」
- 大阪府**
吉田一夫(大阪市)「極楽、極楽!!」
後藤隆 平伊(大阪市)「運上はビールちゅ」
高岡万穂子(大阪市)「サッカー仲間」
古川栄次郎(守口市)「犬(レディー)と遊ぼう」
大西 進(門真市)「散歩」
田川嘉子(堺市)「反省」
寺澤四郎(堺市)「仲よし」
盛野富子(堺市)「ジャンプ」
秋田寿美(大東市)「出会い」
橋野 晃(泉佐野市)「涼しいニャン」
千野由将(岸和田市)「愛犬の晴姿(お祭り)」
植野菊三(岸和田市)「みくの家」
徳田万理(貝塚市)「ほっかほっか」
総野玲子(八尾市)「行くよ!」
才協信吾(八尾市)「信賴」
玉邑猛志(八尾市)「私のハムスター」
掛江富美子(淡木市)「いたづらっ子」
小谷光恵(東大阪市)「大好き」
野口昌弘(東大阪市)「おっ」
信原和代(吹田市)「子守り」
星合孝司(枚方市)「おいで、レイカ。」
- 兵庫県**
井川 完(西宮市)「寄り添って」
高橋弘義(加古川市)「lake supagety」
石見光史(加古川市)「おやつ ちょうだいよ」
小坂秀隆(宝塚市)「祭見物」
安田 美和子(芦屋市)「鍛える」
和田(和歌山)「さんぽ」
豊島淳子(洲本市)「ふれあい、タイム」
大戸正和(三田市)「野点珍景」
安達昌子(三田市)「仲よし」
木村 進(飾磨郡)「いたづら」
- 岡山県**
齊藤 治(岡山市)「仲よし」
- 広島県**
別所昌行(岡山市)「ねむり」
三上 彰(福井市)「おともだち」
清水清隆(大野市)「ある晴れた日に」
根木宏一(倉敷市)「ばあ!」
亀山英章(倉敷市)「やすらぎ」
池葉隼 稜夫(新見市)「なめてもいい?」
前原 進(久米郡)「悪魔の昼寝」
片岡正志(吉備郡)「親子」
山田武治(吉備郡)「仲よし」
津島貞子(和気郡)「彼岸花をまもって」
中島克子(英田郡)「つかれた」
濱田浩昭(赤磐郡)「うごかないでえ〜」
- 広島県**
沖本孝則(広島市)「水泳訓練」
尾崎俊雄(広島市)「夕暮れ」
藤本武治(広島市)「友愛」
賀中義隆(広島市)「カエルだゾー」
本郷谷 麻里(尾道市)「ホット…息」
佐藤康子(府中市)「もうすこしで…」
北山正恵(安芸郡)「やきもち」
- 山口県**
石田良子(山口市)「水しぶき」
北山正恵(安芸郡)「やきもち」
山口正史(安芸郡)「やきもち」
上野正則(太宰府市)「犬ぞり」
中川千恵子(筑紫野市)「もう、子供がねえよ」
古賀真博(大川市)「なかよし」
遠藤雅一(飯塚市)「仲良く日向ぼっこ」
上田重雄(前原市)「日本の猫」
増田幸介(春日市)「曲がる猫」
武田光世(三井郡)「ゆめごころ」
羊田しのぶ(糸島郡)「ひとあはれその時がら」
高橋千菜(糟屋郡)「お風呂」
大池ヤチヨ(田川郡)「ヤギとまご達」
- 佐賀県**
堤 純子(佐賀市)「いっしょに いいおかわり」
納富さすみ(佐賀郡)「がんばる…」
吉永 登(佐賀郡)「日向ぼっこ」
川原利明(藤津郡)「ふれあい」
- 長崎県**
竹下 勇(長崎市)「ワイ散歩の時間だよー」
貞倉 勝(佐世保市)「誰いっちゃん大好き」
小田悦子(佐世保市)「エアロビ体操」
飯藤ひとみ(東彼杵郡)「だーいすき!!」
- 大分県**
松木理恵(大分市)「まなざし」
磯田寛徳(大分市)「見つめあふ二人」
宮元和子(中津市)「ぼく、農業後継者」
司城 小百合(中津市)「ハイと僕達」
田口智枝子(宇佐市)「ジャンプ」
- 宮崎県**
北野純子(宮崎市)「お参り一緒に」
松本祐子(宮崎市)「気持ちいい!!」かな
原田ルン子(宮崎市)「ほっかほっか」
眞子 司朗(宮崎市)「WHO ARE YOU?」
山本末之(宮崎市)「だーい好き」
吉岡 悟(児湯郡)「海辺」
- 熊本県**
森崎祐希(熊本市)「おばあちゃんの選額」
緒方富雄(熊本市)「中へ入れてよ」
田上義高(熊本市)「ふれあい」
黒瀬博哉(熊本市)「あちやで待って」
林田 豊(上益城郡)「お犬様ご主役」
田中治広(下益城郡)「隣りのボス」
- 沖縄県**
金城奈津江(那覇市)「抱っこできたよ」
金城好隆(那覇市)「こわくないよ」
石川美由紀(石川市)「あくび」
秋元ナナ(浦添市)「かんばん留守番犬」
山内昌紀(宜野湾市)「ひと休み」
嘉数知子(島尻郡)「雨上りのお散歩」

楽しい、かわいい、傑作ショット大募集!
第3回ペット・動物ふれあい写真コンテスト
入選作品発表!!

総評：今回審査をしていて特に感じたのは、最近ペットとして人気のフェレットやハムスター、モルモットなどの小動物をモチーフとした作品が増えてきたことです。ただし小動物は犬や猫に比べて小さく接写がしにくい分、ピントが甘くなりがち傾向もみられました。こうしたピント以外にも、被写体や状況に合わせてレンズやフィルム、三脚などトータルに気を配り、慎重な撮影を心がけていただければ、より優れた写真となるはず。また、今回のグランプリがネガカラー作品だったように、必ずしもリバーサル作品を優先するわけではないので、フィルムはそれぞれが使い慣れたものを使用された方がよいと思います。

審査員 増田勝正氏

1945年東京都出身。愛犬雑誌のカメラマンを経て現在フリーの動物カメラマン。最近の主な作品に「NHK趣味百科「イヌとつきあうために」(日本放送出版協会)、「パラメータ「ネコ」(講談社)がある。富士写真フィルム、山と深谷社等のカレンダーでも知られる。アメイト(盲導犬)のボランティア活動にも参加し、自ら犬、猫の繁殖・育成にかかわっている。



「僕と遊ぼうよ」
石川 昇(香川県三豊郡)
寸評：男の子と犬とのふれあいが、ストレートに伝わってくる作品です。動物と子供をとりえることで、このような微笑ましいシーンとなり得ることを強く感じました。望遠レンズにも関わらずピントがしっかりと、技術的にも優れた作品です。

優秀賞 <10名> 賞金3万円と楯



応募総数約5,000点

第3回「ペット・動物ふれあい写真コンテスト」に、今年もたくさんのご応募ありがとうございました。約5,000点にのぼる応募総数の中から、見事に入選された方々の作品を、ここに発表させていただきます。

最優秀賞 <5名> 賞金5万円と楯



「夫婦愛」
三上利美(北海道函館市)
構図もしっかりしており、温もりが伝わってくる。ほのぼのとした人間のような愛を感じます。

「愛馬と…」
高松保彦(群馬県新田郡)
北国の厳しい自然や、人と馬との絆が、見る者の心に強烈に訴えかけてくる作品です。

「ひととき」
山本浩二郎(山口県柳井市)
暗くシンプルなバックに、女の子の頬や白い猫を浮き立たせた、ライティングが絶妙な作品です。



「浜辺の詩」
喜多昭弘(兵庫県高砂市)
風による横に広がった波紋の中に、シルエットのシルエットが浮き上がって、絵画的な作品です。



デジタルビデオカメラ特集

デジタルビデオカメラはここ2、3年の間に各社から新製品が続々と発売され、画質の向上とともに小型化が一段と進展しています。今回はデジタルならではの周辺機器も充実してきたデジタルビデオカメラを取り上げました。(一部、Hi8カメラがあります)

デジタルビデオカメラ(DVC)が店頭に現れた当初は、DVCの特徴として「画質がきれい」「ダビングしても画質が劣化しない」といった点ばかりが強調されてきました。しかしその後、受像素子であるCCDの性能が向上し、またバッテリーやプリンターといった周辺機器も開発・発売されるようになると、「画像にブレが起きない」「長時間撮影が可能」「写真に近いきれいなプリントが得られる」といった、デジタルならではの特徴が次第に商品にも反映



されるようになりました。最近ではDVCで撮った静止画像にパソコンで画像処理を加えるお客様も増えていきます。DVCは今や画像を撮る機材から、画像を楽しむ機材へと、その応用範囲を大きく広げています。DVCを購入する場合も、従来とは異なった活用の仕方があることを考慮しながら、自分の必要に応じてカメラを選ぶように心がけてください。

使用目的に合った機種を選択しましょう

お客様がビデオカメラを購入しない理由として、特に「充電が面倒」「見る時の接続が面倒」の二つが挙げられています。まずこの二点を解消している製品を選びましょう。

長時間撮影には低消費電力タイプのDVCが有利なことはいうまでもありませんが、インジケータなどでバッテリーの残量が一目でわかるものや、急速充電が可能なものを選ぶと便利です。また、DVCには子供の誕生や成長、また運動会などの記録を中心とした、扱いが簡単なファミリータイプと、セミプロやプロのサブカメラとして使用できる多機能タイプとがありますので、自分の使用目的をよく検討した上で購

入するようにしてください。さらに、画像をパソコンに取り込んでデジタルでの画像処理や編集を楽しむみたいという方は、パソコンに簡単に画像を取り込めるかどうかを確認してください。この場合はDV端子が重要です。DV端子は映像、音声、データコードなどの情報をデジタル信号のまま入出力できる端子で、アナログ/デジタル変換、あるいはデジタル/アナログ変換のプロセスを経る必要があります。また、静止画をパソコンに取り込むのも容易です。

これに8ミリやVHSなど過去に撮影したアナログテープの画像をデジタルテープに録画できるアナログ入力端子が装備されていれば、なお便利でしょう。

画質を楽しみたいのならトータルな判断で選択を

画像の画素数が多ければ、それだけきれいな画質が得られると考えている方も少なくないのではないのでしょうか。しかし良質な画像というのはレンズ、CCDの性能、記録するメディアなど、DVCの総合力で得られるのです。画質を中心にDVCを購入しようとするなら、特にトータルな判断を心がけてください。

プリントをして楽しみたいのであれば、ブレの少ない静止画が得られる機種を購入するようにしましょう。

ハイテク・スタミナ・多機能 SONY Digital Handycam TRV9



■長時間撮影を実現

低消費電力設計と高容量リチウムイオンバッテリーの開発により、長時間撮影を実現。別売のリチャージャブルバッテリーパックNP-F950を使用すれば8時間以上の連続撮影が可能。

■新開発CCDによる劣化の少ない画質

新開発1/4型68万画素CCDの採用により、劣化の少ないより忠実な記録が可能。

■先進技術で手ブレを補正

新アクティブイメージリア方式ブレ補正を搭載、望遠撮影時でも安定した画像が得られます。



※写真はスチル写真によるイメージです。

■短時間のクイックチャージ

僅か25分間の充電で約1時間の連続撮影が可能。(別売NP-F950/F750/F550使用時)

■目でわかる充電時間

録画時のバッテリー残量を分単位で確認でき、別売のチャージャーAC-V700/DC-V700を使用すれば充電中にその時点での撮影可能時間と充電完了時間を知ることができるので、必要な分だけ充電して撮影をはじめることができます。

■暗闇でも写せるナイトショット

内蔵のナイトショットライトから赤外線が照射され、人の目ではキャッチできない光線をCCDがキャッチ。暗闇でも撮影ができるので、子供の寝姿や夜行性のペットなど、明るい場所では撮れないシーンも撮影することができます。

■VHSや8ミリをDVに録画

VHSビデオデッキや8ミリビデオカメラに接続できるアナログ端子を装備。アナログビデオの映像、音声をDVテープに録画可能。

■フォト撮影機能搭載

音声とともに7秒間ブレの少ない静止画が撮れるフォト機能を搭載。動画撮影中でもフォトボタンを押すだけで、シャッターチャンスを見逃さず静止画が撮影できます。



【仕様】 ●信号方式：IEEE1394準拠 ●CCD総画素数：68万画素 ●レンズ：自動絞り15倍電動ズームF1.8~2.4(f3.4~51.0mm) ●ズーム：光学15倍/デジタル60倍 ●静止画像：デジタル静止画像出力可能 ●モニター：3.5型液晶画面 ●録画時間：最大60分(SP)、90分(LP)、DVW使用時 ●消費電力：録画・ファインダー使用時4.0W/液晶使用時5.0W ●寸法：幅87mm×高104mm×奥行173.2mm ●本体重量：約780g ●コンパクト&ハイスぺック
メーカー希望小売価格(税別) 225,000円(本体のみ)

デジタルビデオカメラ特集

デジタルビデオカメラはここ2、3年の間に各社から新製品が続々と発売され、画質の向上とともに小型化が一段と進展しています。今回はデジタルならではの周辺機器も充実してきたデジタルビデオカメラを取り上げました。(一部、Hi8カメラがあります)

デジタルビデオカメラ(DVC)が店頭に現れた当初は、DVCの特徴として「画質がきれい」「ダビングしても画質が劣化しない」といった点ばかりが強調されてきました。しかしその後、受像素子であるCCDの性能が向上し、またバッテリーやプリンターといった周辺機器も開発・発売されるようになると、「画像にブレが起きない」「長時間撮影が可能」「写真に近いきれいなプリントが得られる」といった、デジタルならではの特徴が次第に商品にも反映



されるようになりました。最近ではDVCで撮った静止画像にパソコンで画像処理を加えるお客様も増えていきます。DVCは今や画像を撮る機材から、画像を楽しむ機材へと、その応用範囲を大きく広げています。DVCを購入する場合も、従来とは異なった活用の仕方があることを考慮しながら、自分の必要に応じてカメラを選ぶように心がけてください。

使用目的に合った機種を選択しましょう

お客様がビデオカメラを購入しない理由として、特に「充電が面倒」「見る時の接続が面倒」の二つが挙げられています。まずこの二点を解消している製品を選びましょう。

長時間撮影には低消費電力タイプのDVCが有利なことはいうまでもありませんが、インジケータなどでバッテリーの残量が一目でわかるものや、急速充電が可能なものを選ぶと便利です。また、DVCには子供の誕生や成長、また運動会などの記録を中心とした、扱いが簡単なファミリータイプと、セミプロやプロのサブカメラとして使用できる多機能タイプとがありますので、自分の使用目的をよく検討した上で購

入するようにしてください。さらに、画像をパソコンに取り込んでデジタルでの画像処理や編集を楽しむみたいという方は、パソコンに簡単に画像を取り込めるかどうかを確認してください。この場合はDV端子が重要です。DV端子は映像、音声、データコードなどの情報をデジタル信号のまま入出力できる端子で、アナログ/デジタル変換、あるいはデジタル/アナログ変換のプロセスを経る必要があります。また、静止画をパソコンに取り込むのも容易です。

これに8ミリやVHSなど過去に撮影したアナログテープの画像をデジタルテープに録画できるアナログ入力端子が装備されていれば、なお便利でしょう。

画質を楽しみたいのならトータルな判断で選択を

画像の画素数が多ければ、それだけきれいな画質が得られると考えている方も少なくないのではないのでしょうか。しかし良質な画像というのはレンズ、CCDの性能、記録するメディアなど、DVCの総合力で得られるのです。画質を中心にDVCを購入しようとするなら、特にトータルな判断を心がけてください。

プリントをして楽しみたいのであれば、ブレの少ない静止画が得られる機種を購入するようにしましょう。

デジタルビデオ撮影ワンポイントアドバイス

基本はアナログと同じ、ズームは光学ズームでの撮影を。

カメラがデジタルに変わったからといっても、従来のビデオカメラと撮影方法が大きく変わるわけではなく、撮影時の注意点や基本はほとんど同じです。録画はビデオカメラをしっかりと安定させた状態で撮影しましょう。また、最近DVCのデジタルズームの倍率が全体的にアップしていますが、このデジタルズームの高倍率撮影は画質を極端に低下させますので、良質な画質を望むのなら、光学ズーム内で撮影することをお勧めします。



DVCはその周辺機器の発達とともに、単に画像を記録するにとどまらない、多くの可能性を秘めた商品です。読者の皆様もこれを機会に新しい画像の世界に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。

Panasonic

マルチ画面で楽しさ拡げる

Panasonic DIGICAM NV-DS7

■小型・軽量 新技術により小型・軽量化に成功。

■マルチ画面表示

1画面に9枚の静止画を表示。動きのある映像を分解写真のように見られ、インデックスとして様々な機能を発揮します。

■子画面PinP機能

手軽に合成画像が作れる楽しい機能。看板や手書きタイトルなどを静止画撮影して子画面に表示させたまま撮影すれば、タイトル入りの合成映像となります。

■パソコン対応

編集、プリントにDV端子とデジタル静止画端子搭載。パソコンへの送信も容易(別売キット必要)。

■連続撮影約9時間

長時間バッテリーVW-VBD5(別売)で旅行や運動会も安心。

■プリント可能

ビデオプリンター(別売)で自動プリントも可能。

【仕様】 ●信号方式:NTSC日米標準信号方式 ●CCD総画素数:58万画素 ●録画方式:プラズマ・ミグヘッド ●レンズ:自動絞り10倍電動ズームF1.4 (f4.7~47.0mm) ●ズーム:光学10倍/デジタル25倍/スーパー100倍 ●静止画像:デジタル静止画像出力可能 ●モニター:3.8型液晶画面 ●録画時間:最大60分(SP)、90分(LP)、DVW使用時 ●消費電力:録画・ファインダー使用時4.3W/液晶使用時5.6W ●寸法:幅58mm×高94mm×奥行133mm ●本体重量:約580g(バッテリー別) ●楽しめるマルチ画面

メーカー希望小売価格(税別)
240,000円(本体のみ)

自在な撮影ができるプロ機能

Panasonic DIGICAM NV-DJ100

■3CCD搭載 光の3原色R・G・Bそれぞれに専用CCDを使用した高解像度タイプ。

■プロフェッショナル機構

マニュアル機能の充実化で撮影領域が幅広くなり、自在な撮影が可能。

■高画質フレーム記録方式 約7秒間の静止画を記録するフレームショットは3CCDを活かして通常のフィールド画の1.5倍以上の垂直解像度を実現。

■パソコン対応 編集、プリントにDV端子とデジタル静止画端子搭載。パソコンへの送信も容易(別売キットが必要)。

■プログラムAE シーンに合わせて最適な状態にセットして撮影できるプログラムAE。

メーカー希望小売価格(税別)
265,000円(本体のみ)

スポーツ感覚の薄型液晶

Panasonic DIGICAM NV-DE3

■4型液晶搭載 ■300度回転レンズ ■高画質ワイドモード

■手ブレ補正機能 ■映像演出機能 ■明るいレンズ

メーカー希望小売価格
オープン価格

SONY

デジタルビデオカメラレコーダー
SONY DCR-VX1000

■3CCDデジタルカメラシステム搭載

デジタルビデオの映像クオリティを最大限に活かします。

■新アクティブプリズム方式手ブレ補正機能

3CCDデジタルカメラのハイクオリティを活かし、きれいな画像が得られます。

■緻密で美しいフォトモード撮影

デジタルビデオの高画質に加え、クリアフレーム技術により、より緻密で美しい画像が得られます。

■DV入出力端子装備

映像、音声、AUXデータなどをデジタル信号のまま入出力するDV端子を装備。

メーカー希望小売価格(税別)
350,000円(ワイヤレスリモコンRM-802付属)
別売:アクセサリキットACC KIT-D8
メーカー希望小売価格 18,500円デジタルビデオカメラレコーダー
SONY DCR-VX9000

■3CCDデジタルカメラシステム搭載

スタンダードDVカセット対応、3CCDカメラシステム搭載のDV方式デジタルビデオカメラ。

■長時間撮影が可能

高容量リチウムイオンバッテリー使用による長時間撮影が可能。

■DV入出力端子装備 デジタル信号のまま、ダビングやパソコンへの静止画取り込みができるDV入出力端子を装備。

〈その他の主要機能〉 ●16ビット/12ビットPCMデジタル録音

●アフレコ機能(12ビット時) ●充実のマニュアル操作

●アクティブプリズム方式手ブレ補正

●フォトモード撮影

メーカー希望小売価格(税別)
550,000円(ワイヤレスリモコンRM-806付属)
別売:アクセサリキットACC KIT-D8
メーカー希望小売価格 18,500円8ミリ
ビデオ根強い人気のハイテク・スタミナHi8
SONY Hi8 Handycam CCD-TRV95K

従来からあるHi8やVideo8のビデオカメラも根強い人気を博しています。画質もXRなどの技術が活かされ、水平解像度もデジタル画に匹敵するほど鮮明。また、消費電力も僅か(大型の4型液晶画面使用時3.8W、ビューファインダーのみ使用時2.7W)で、12時間以上もの長時間連続撮影が可能です。

■充実した長時間対応

低消費電力設計と、高容量リチウムイオンバッテリーの開発により、さらに長時間撮影が可能になって、スタミナが大幅アップ。別売りのチャージャーAC-V700の使用により僅か15分で約1時間の連続撮影が可能です。レックタイムインジケータで充電時間、残量も目で確認できます。

■高倍率のズーム きれいに撮影できる光学ズームが18倍、またデジタル72倍のズームで迫力ある画面が再現されます。手ブレ補正で望遠時には安定した画像が得られます。

■大型液晶モニター 大型サイズ液晶モニターで「撮る」「見る」が快適です。

■わずらわしいコード接続が不要 テレビでの再生時にわずらわしいコード接続がないコードレス伝送(別売コードレスシーバーが必要)。

メーカー希望小売価格(税別)
185,000円(本体のみ)

【仕様】 ●CCD総画素数:47万画素 ●ズーム:光学18倍/デジタル72倍 ●静止画像:ノーマル、上下からシャッター幕が出てくるシャッターフォト、フェードイン/アウトの多彩な3モード ●寸法:幅110mm×高129mm×奥行213mm ●本体重量:約1Kg

フォトライフ四季 ふれあい広場

読者の皆様から寄せられた、お便り＆お写真をご紹介します。



緑の中を歩いている子猫……捨て猫だったので我が家で飼うことに！
このかわいい子猫が一年後には、こんなふてぶてしい、お母さん猫になろうとは……
斉藤陽子 (大阪府堺市)

初めまして。
私は写真が大好きで、必ずカメラを持っていきます。忘れた時には「写ルンです」など、2本も3本も買ってしまうほどで、アルバムの数もフィルムの枚数も人より多いと思います。カメラもAF一眼レフを最近「キタムラ」で買い、ますます大好きになってしまいました。
一度は写真関係の仕事もやってみたいので、写真の勉強をしたいと思っています。
中野一枝 (神奈川県伊勢原市)



▲だいぶ太めですが、山形蔵王の樹氷。雄大で神秘的な姿。

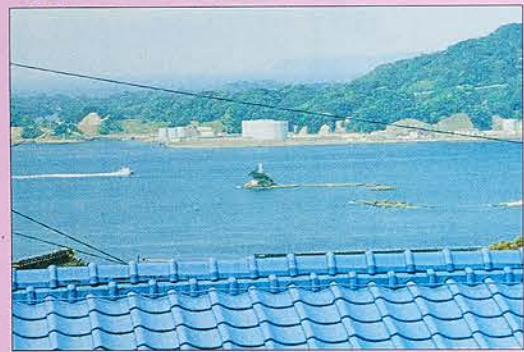


館山寺温泉、山水欣龍にて、とび?の子供かな。テラスにとまってフラッシュたいても驚く様子もなく、一時間近くも毛づくろいをしたり、可愛い姿を見せてくれました。
伊藤清子 (三重県津市)

食べながら眠る？
息子の眠そうな顔を見て、シャッターチャンスを狙いました。
小出フサエ (岡山県玉野市)



▼真ん中が、とりのこされた一里ヶ島。



大昔、佐世保の沖に百の島があったそう。港まで宴会に来て、太陽が昇ってきた。早く帰らななきゃ。一つの島が忘れ物した。太陽が昇り、港の真ん中に残されてしまった。百の島が九十九の島に。九十九島と一里ヶ島の伝説！
長崎県佐世保港の昔々のお話。島は暗いところが良く、明るい一歩も動けないので、太陽が昇り、取り残されたらTVで数年前に聞いたお話。松本鉄磨 (長崎県佐世保市)



近くにキタムラさんができて、はじめてフォトライフ四季を手に入れました。私のような素人でも上手に写真を撮るコツなど情報満載なので、隅々まで楽しく読ませていただきました。
今回送りました写真は、4歳になる息子の潤平と私の母を写したものです。ワンパク盛りの潤平が春満開とばかりに咲くパンジー、ムスカリ、そしてもつとく開くチューリップの花を、イタズラして摘もうとしていたところを、コラッ！と言えは言うほどイタズラをしようとしていました。そんなひとコマの写真です。
大島真輝 (愛知県瀬戸市)



連載「路上観察」の達人が面白いので、市内テクノロード沿いのほほえましい「笑う植木」を撮ってみました。春と秋のフォトコンで9回入賞のネイチャー風景専門ですが、日常スナップも楽しいものです。ちなみにオレンジ色のガードレールは、黒花が夏蜜柑の山口県特有のもので。広田和夫 (山口県宇部市)

お便り＆傑作写真大募集!

このコーナーでは、皆様からの楽しいお便りや、傑作写真にコメントを添えた投稿を募集しています。掲載させていただいた方には粗品を進呈いたします。ハガキ・封書での送りは、〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ広報室「フォトライフ四季ふれあい広場」係まで。お便りは、ファックス番号 045-476-0778でも受け付けております。また、お近くの「カメラのキタムラ」に直接お持ちいただいても結構です。読者の皆様からのたくさんのご応募をお待ちしています。(なお、応募作品の返却はいたしかねますのでご了承ください。)

*このコーナーに多数のご応募をいただき、ありがとうございました。今回はすべてのお便り・お写真をご紹介できませんでしたがご了承ください。

粗品進呈!
どしどし応募ください!

デジタルビデオカメラ特集

Canon

ムービー・スチルともに超高画質 CANON Digital Video Camera MV1

■プログレッシブモード 従来のビデオカメラはストップモーションにすると画像ズレが発生していましたが、全画素読み出し CCDによりその欠点を解消。最高の静止画を提供。

■スチル映像モード

本格的なデジタルスチルカメラとしての精度と機能を組み込み、一眼レフ同様のシャッタースピード優先、絞り優先のAE機構を搭載。ストロボ撮影にも対応。



メーカー希望小売価格(税別) 235,000円(本体のみ)

スナップするようにビデオを撮る CANON Digital Video Camera CV11

■コンパクト 使い易さと携帯性を重視した超コンパクト。

■簡単操作 ワンタッチで作動、カメラと同様にストラップスタイルの採用で撮りたい時にすぐ撮れます。

■可変式液晶モニター 対面撮影、ハイアングル撮影、ローアングル撮影も自在。撮影状況によってポジションを選べます。

■プログラムAE機構 撮りたいシーンに合わせてシャッタースピード、絞り値が全て自動。



メーカー希望小売価格(税別) 198,000円(本体のみ)

Victor

POKET SIZE DIGITAL MOVIE VICTOR GR-DVJ

■ピッタリ収納 凸凹のないスリムなタテ型&フラットボディで女性のハンドバッグにも収納できます。

■撮影スタンバイが簡単

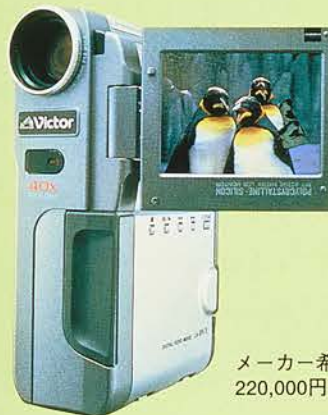
- ①電源ダイヤルを回す
- ②液晶画面を開く(またはビューファワーを引く)
- ③撮影準備完了。液晶画面を閉じれば電源OFF。

■写真モード

カメラ感覚で静止画像を簡単撮影。

■多彩な編集機能

再生デジタルズーム&トリミング、8プログラム自動編集などを搭載。



メーカー希望小売価格(税別) 220,000円(本体のみ)

POKET SIZE DIGITAL MOVIE VICTOR GR-DVL

■明るいレンズを採用

F1.8の約2倍の明るさを持つF1.2を採用。映像の解像度、クオリティが飛躍的に向上。

■高感度補色フィルターとカメラの新回路

感度を大幅にアップさせて暗いシーンでも正確な色再現が可能に。映像の総合的なアップを図っています。

■プログレッシブスキャンCCD搭載

情報の密度が高く、ブレのない鮮明な静止画の再生を実現。動画、静止画ともに鮮明で高画質な映像が残せます。



メーカー希望小売価格(税別) 240,000円(本体のみ)

SHARP

液晶デジタルビューカム SHARP VL-EF1

■タッチコン液晶採用 操作に必要なキーが現れますから迷うことなく操作ができます。撮影中の瞬間ズームやフォーカスロック、明るさの補正位置も画面上でタッチするだけでOKです。ビデオの早送り・巻戻し・映像調整も画面にタッチするだけで、誰でも使用できます。

■回転チルト機構 カメラ部とモニター部がクルクル回転し、ローアングルからハイアングルまで自然な姿勢で撮影できます。

■スナップボタン 静止画と一緒に音声も撮れます。



メーカー希望小売価格(税別) 210,000円(本体のみ)

150万画素とは、地球も変わった。



NEW



この美しい画質が、150万画素。

新開発の150万画素・正方面素原色CCD、新・画像処理アルゴリズム、高解像度フジノンレンズなどの先進のテクノロジーを搭載し、真のメガピクセル画質にふさわしい階調表現力と色再現性を実現しました。

ポケットに入る、世界最小・最軽量*。

撮影時のホールドしやすさを追求したスタイリッシュなアルミ合金製ボディは、150万画素クラスでは世界最小・最軽量サイズ。記録メディアには超小型・超薄型のスマートメディアを採用しています。



- 新開発150万画素・正方面素原色CCD●DRAM内蔵高速RISC-CPU
 - 新・画像処理アルゴリズム●高精度AF&プログラムAE●高解像度フジノンレンズ●マニュアル、マルチ連写、モノクロ、マクロ撮影●VGAモード●2インチ低温ポリシリコンTFTカラー液晶モニター●マルチ再生機能●美肌モード
- *平成10年2月現在、150万画素クラスデジタルカメラで。*画面ははめ込み合成です。

150万画素 世界最小・最軽量*

DIGITAL CAMERA

FinePix 700

〈デジタルカメラ ファインピックス700〉99,800円

メーカー希望小売価格(消費税別)

カタログをご請求の方は、ハガキに住所、氏名、年齢、職業、勤務先、電話番号をご明記の上下記までご請求ください。
富士写真フイルム株式会社 電子映像事業部 営業部 FP700[PL夏]係 〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30
(FUJIFILMホームページ) http://www.fujifilm.co.jp/p_infoj.html

DIGITAL IMAGING SERVICE F-DIデジタルカメラプリントサービス F-DI対応のデジタルカメラで撮影したスマートメディアがPCカードを左記マークのお店にもっていくだけで通常の写真と同様の高品質なプリントができるサービスです。(プリントは後日受け付け店にてお渡しします。)詳しくはマークのお店で。